

カンボジア・ラオス  
巡回指導調査団 報告書

平成 15 年 6 月

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局

JICA LIBRARY



1172641【1】

青海二
JR
03-2



## 隊員配置図

### 写真

## 目次

### 第一章 調査概要

1-1 調査の目的.....	1
1-2 調査団の構成.....	1
1-3 調査日程.....	2
1-4 主要面談者.....	3

### 第二章 調査結果

2-1 カンボジア調査結果.....	5
2-1-1 共通調査事項.....	別添
2-1-2 隊員配属先訪問（プノンペン）.....	5
（1）柴沼晃（13/3・統計・計画省統計局）	
（2）北田薫（13/3・コンピュータ技術・計画省統計局）	
（3）鎗内美奈（12/3・日本語教師・王立プノンペン大学）	
（4）宮崎智子（14/3・日本語教師・王立プノンペン大学）	
（5）小林由佳（14/3・日本語教師・王立プノンペン大学）	
（6）森下亜由美（14/3・日本語教師・王立プノンペン大学）	
（7）野口砂絵子（14/1・コンピュータ技術・王立プノンペン大学附属フンセン図書館）	
（8）堀麻衣子（13/1・陶磁器・王立芸術大学）	
（9）木野本まゆみ（13/3・音楽・王立芸術大学）	
（10）亀山千景（14/1・小学校教諭・第4社会福祉センター）	
（11）斉藤幸代（13/1・日本語教師・国立経営大学）	
（12）中井円香（14/1・日本語教師・国立経営大学）	
（13）福田智彦（14 シニア隊員・日本語教師・法律経済大学）	
（14）高嶋成治（13/3・人口・環境問題環境省）	
2-1-3 隊員配属先訪問（三角協力プロジェクト）.....	8
（1）菊池匡（平成14年度シニア隊員・プログラムオフィサー）	
（2）城井芳子（14/1・陶磁器）	
（3）辻香織（13/3・婦人子供服）	
（4）鹿野仁子（13/2・識字教育）	
（5）阿部山優子（13/3・公衆衛生）	

2-1-4	隊員配属先訪問 (シエムリアップ) .....	9
(1)	中山晴美 (14/1・体育・プレ・エンコーサ中学校)	
(2)	斉藤都 (13/3・日本語教師・シエムリアップ州観光局)	
(3)	加藤真希 (13/3・環境教育・地方環境事務局)	
(4)	水口師昭 (13/1・幼稚園教諭・アンコール幼稚園)	
(5)	北川禎之 (14/2・コンピュータ技術・アンコール地域遺跡整備機構 (ア プサラ機構))	
2-2	ラオス調査結果.....	11
2-2-1	共通調査事項.....	別添
2-2-2	隊員配属先訪問 (サヤブリ) .....	11
2-2-3	隊員配属先訪問 (ルアンパバン) .....	11
2-2-4	隊員配属先訪問 (ビエンチャン) .....	12
2-2-5	隊員配属先訪問 (カムワン) .....	13
2-2-6	隊員配属先訪問 (サバナケット) .....	13
2-2-7	隊員配属先訪問 (パクセ) .....	13
2-2-8	緊急移送ルート.....	14

別添資料



1172641【1】

カンボディア国 ボランティア配置図

平成15年6月1日現在



カンボディア国 ボランティア派遣情報一覧

平成15年6月1日現在

任地番	No.	隊次	隊員氏名	性別	隊員氏名(英)	職種/指導科目	派遣期間～	～派遣期間	任地	配属先省庁	活動先
1	122		岡野 和枝	Ms.	Kazuo OKANO	日本語教師	20001206	20020605	プノンベン	教育青年スポーツ省	王立プノンベン大学 外国語研究所
	123		鎌内 美奈	Ms.	Mina YARIUCHI	日本語教師	20010404	20031224	プノンベン	教育青年スポーツ省	王立プノンベン大学 外国語研究所
	131		堀 麻衣子	Ms.	Maiko HORI	陶磁器	20010711	20030502	プノンベン	文化芸術省	王立芸術大学
	131		鈴木 朋子	Ms.	Tomoko SUZUKI	コンピューター技術	20010711	20030710	プノンベン	女性問題・退役軍人省	本省
	131		斉藤 幸代	Ms.	Yukiyo SAITO	日本語教師	20010711	20030815	プノンベン	教育青年スポーツ省	国立経営大学
	132		大嶋 理美	Ms.	Masami Oshima	幼稚園教諭	20011205	20031204	プノンベン	プノンベン市	教育局 ミットピアップ幼稚園
	133		柴沼 晃	Mr.	Akira SHIBAHAMA	統計	20020404	20040403	プノンベン	計画省	統計局
	133		高木 晃	Mr.	Akira TAKAGI	コンピューター技術	20020404	20040403	プノンベン	社会福祉・労働・青年訓練	リハビリテーション局
	133		北田 薫	Mr.	Kaoru KITADA	コンピューター技術	20020404	20040403	プノンベン	計画省	統計局
	133		木野本 まゆみ	Ms.	Mayumi KINOMOTO	音楽	20020404	20040403	プノンベン	文化芸術省	王立芸術大学
	141		野口 砂絵子	Ms.	Saeko NOGUCHI	コンピューター技術	20020717	20040716	プノンベン	教育青年スポーツ省	王立プノンベン大学フンセン図書館
	141		中井 円香	Ms.	Madoka NAKAI	日本語教師	20020717	20040716	プノンベン	教育青年スポーツ省	国立経営大学
	141		宇田川 順子	Ms.	Yoriko UDAGAWA	理数科教師	20020717	20040716	プノンベン	教育青年スポーツ省	中等教員養成学校プノンベン校
	141		龜山 千影	Ms.	Chikage KAMEYAMA	小学校教諭	20020717	20040320	プノンベン	社会福祉省	第4社会福祉センター
	142		澤山 博輝	Mr.	Hiroki SAWAYAMA	体育	20021204	20041203	プノンベン	教育青年スポーツ省	中等体育教員養成学校
	143		宮崎 智子	Ms.	Tomoko MIYAZAKI	日本語教師	20030410	20050409	プノンベン	教育青年スポーツ省	王立プノンベン大学 外国語研究所
	143		森下 亜由美	Ms.	Ayumi MORISHITA	日本語教師	20030410	20050409	プノンベン	教育青年スポーツ省	王立プノンベン大学 外国語研究所
	143		小林 由佳	Ms.	Yuka KOBAYASHI	日本語教師	20030410	20050409	プノンベン	教育青年スポーツ省	王立プノンベン大学 外国語研究所
	143		山田 光広	Mr.	Mitsuhiro YAMADA	コンピューター技術	20030410	20050409	プノンベン	教育青年スポーツ省	マラリアセンター
	144		福田 智彦	Mr.	Tomohiko FUKUDA	日本語教師	20020903	20040902	プノンベン	教育青年スポーツ省	国立経営大学
	SV		和田 勝	Mr.	Masaru WADA	電子工学	20010405	20031004	プノンベン	教育青年スポーツ省	プレアソマ職業訓練センター
	SV		小林 崇春	Mr.	Muneharu KOBAYASHI	財務行政	20020410	20040409	プノンベン	女性・退役軍人問題省	総務管理部
	SV		佐藤 雅也	Mr.	Masaya SATO	財務行政	20011023	20031022	プノンベン	女性・退役軍人問題省	財務部
	SV		佐藤 宗典	Mr.	Munenori SATO	システムエンジニア	20011023	20031022	プノンベン	教育青年スポーツ省	日本友好技術訓練センター
	SV		森 博彦	Mr.	Hirohiko MORI	行政一般	20011023	20031022	プノンベン	内務省	国家警察(科学技術部)
	SV		高岡 光博	Mr.	Mitsunobu TAKAOKA	電子工学	20020410	20040409	プノンベン	社会福祉労働省	プノンベンシュメイ障害者職業訓練センター
	SV		斎藤 ちか子	Ms.	Chikako SAITO	縫製	20020410	20040409	プノンベン	社会福祉労働省	プノンベンシュメイ障害者職業訓練センター
	SV		松田 治	Mr.	Osamu MATSUDA	青少年活動	20020410	20040409	プノンベン	教育青年スポーツ省	カンボディアボーイスカウト連盟
	SV		瀧澤 森子	Ms.	Kyoko SAIO	教員養成	20011023	20031022	プノンベン	農林水産省	国立農業大学
	SV		山田 三千夫	Mr.	Michio YAMADA	文化	20020410	20040409	プノンベン	文化芸術省	国際文化協力・アセアン局
	SV		北野 康子	Ms.	Yasuko KITANO	文化	20011023	20021023	プノンベン	農林水産省	国立農業大学
	SV		西村 順治	Mr.	Kenji NISHIMURA	高等教育	20011023	20031022	プノンベン	農林水産省	国立農業大学
	SV		坂田 優子	Ms.	Yuko SAKATA	生活指導	20020410	20040409	プノンベン	社会福祉労働省	国立キエンクリエン孤児院
	SV		高橋 寛	Mr.	Hiroshi TAKAHASHI	早期幼児教育	20020410	20040409	プノンベン	教育青年スポーツ省	幼稚園教員養成学校付風幼稚園
	SV		野村 美知子	Ms.	Michiko NOMURA	早期幼児教育	20020410	20040409	プノンベン	教育青年スポーツ省	国立幼稚園教員養成学校
	SV		後藤 泰紀	Mr.	Yasunori GOTO	業務調整	20011023	20031022	プノンベン	内務省	国家警察
	SV		入江 治	Mr.	Osamu IRIE	電子工学	20021022	20041021	プノンベン	教育青年スポーツ省	日本友好技術訓練センター
	SV		工藤 剛	Mr.	Takeshi KUDO	合気道	20021022	20041021	プノンベン	教育青年スポーツ省	カンボディア格闘技委員会
	SV		本橋 誠	Mr.	Makoto MOTOHASHI	英語教育	20021022	20041021	プノンベン	教育青年スポーツ省	プレアソマ総合技術専門学校
	SV		桑畑 雅子	Ms.	Masako KUNAHATA	病理細胞診断学	20021022	20041021	プノンベン	保健省	保健科学大学医学部病理学科

カンボディア国 ボランティア派遣情報一覧

平成15年6月1日現在

任地番	No.	隊次	隊員氏名	性別	隊員氏名(英)	職種/指導科目	派遣期間～	～派遣期間	任地	配属先省庁	活動先	
	41	SV	伊藤 祐三	Mr.	Yuzo ITO	工作機械	20030401	20050331	ブノンペン	教育青年スポーツ省	ルセイケオ工業技術学校	
	42	SV	井上 文明	Ms.	Fumiaki INOUE	システムエンジニア	20030401	20050331	ブノンペン	教育青年スポーツ省	ブレアコソマ総合技術専門学校	
	43	SV	川村 進	Mr.	Susumu KAWAMURA	空調機器	20030401	20050331	ブノンペン	教育青年スポーツ省	ルセイケオ工業技術学校	
	44	SV	河野 喜富	Mr.	Yoshinobu KONO	音楽	20030401	20050331	ブノンペン	教育青年スポーツ省	トゥールサンボ小学校	
	45	SV	橋本 好弘	Mr.	Yoshihiro HASHIMOTO	グループデザイナー	20030401	20050331	ブノンペン	教育青年スポーツ省	ブレアコソマ総合技術専門学校	
	46	SV	村上 勝臣	Mr.	Katsumi MURAKAMI	電話伝送技術	20030401	20050331	ブノンペン	郵政省	アンコール電話局	
	47	SV	森谷 重夫	Mr.	Shigeo MORIYA	自動車整備	20030401	20050331	ブノンペン	教育青年スポーツ省	ルセイケオ工業技術学校	
	48	SV	安田 誠治	Ms.	Seiji YASUDA	臨床検査技師	20030401	20050331	ブノンペン	保健省	国立輸血センター	
	49	SV	横山 秀泰	Ms.	Takehiro YOKOYAMA	土木工学	20030401	20050331	ブノンペン	教育青年スポーツ省	ブレアコソマ総合技術専門学校	
	2	50	132	鹿野 仁子	Ms.	Moriko SHIKANO	識字教育	20011205	20031204	コンボンスプー	農村開発省	三角協力プロジェクト
		51	133	阿部山 優子	Ms.	Yuko ABEYAMA	公衆衛生	20020404	20040403	コンボンスプー	農村開発省	三角協力プロジェクト
		52	133	辻 香織	Ms.	Kaori TSUJI	婦人子供服	20020404	20040403	コンボンスプー	農村開発省	三角協力プロジェクト
		53	141	城井 芳子	Ms.	Yoshiko KII	陶磁器	20020717	20040716	コンボンスプー	農村開発省	三角協力プロジェクト
		54	H14	菊池 匡	Mr.	Tadashi KIKUCHI	プログラムオフィ	20020915	20040331	コンボンスプー	農村開発省	三角協力プロジェクト
3	55	141	坪田 和歌子	Ms.	Wakako TSUBOTA	小学校教諭	20020717	20040716	シアヌークビル	教育青年スポーツ省	チア・シム小学校	
	56	SV	安藤 徳子	Ms.	Noriko ANDO	早期幼児教育	20020410	20040409	シアヌークビル	社会福祉労働省	シアヌークビル孤児院	
	57	SV	栗林 恵子	Ms.	Keiko KURIBAYASHI	自然保護	20021022	20041021	シアヌークビル	環境省	シアヌークビル環境局レアム国立公園	
4	58	142	北川 禎之	Mr.	Tadayuki Kitagawa	コンピューター技術	20021204	20041203	シェムリアップ	閣僚評議会	アプサラオーツリティー	
	59	131	加藤 真希	Ms.	Maki KATO	環境教育	20010711	20030710	シェムリアップ	環境省	環境省シェムリアップ地方環境事務所	
	60	131	水口 師昭	Mr.	Noriaki MIZUGUCHI	幼稚園教諭	20010711	20031010	シェムリアップ	教育青年スポーツ省	アンコール幼稚園	
	61	133	齊藤 都	Ms.	Miyako SAITO	日本語教師	20020404	20040403	シェムリアップ	観光省	シェムリアップ州観光局	
	62	141	中山 晴美	Ms.	Harumi NAKAYAMA	体育	20020717	20040320	シェムリアップ	教育青年スポーツ省	プレ・エンコーサ中学校	
	63	SV	石川 悠子	Ms.	Yuko ISHIKAWA	窯業	20021022	20041021	シェムリアップ	文化省	文化芸術省	
	5	64	123	渡邊 宏美	Ms.	Hiromi WATANABE	臨床検査技師	20010404	20030503	バタンバン	保健省	スヴァイ・ポー郡リファラル病院 放射線部
65		132	伊藤 浩子	Ms.	Hirako ITO	家政	20011205	20031204	バタンバン	教育青年スポーツ省	バタンバン中等教員養成学校	
66		133	竹内 満	Mr.	Mitsuru TAKEUCHI	診療放射線技師	20020404	20040403	バタンバン	保健省	スヴァイ・ポー郡リファラル病院 放射線部	
67		143	仲澤 麻友子	Ms.	Mayumi NAKAZAWA	臨床検査技師	20030410	20050409	バタンバン	保健省	スヴァイ・ポー郡リファラル病院 放射線部	
68		SV	小林 恒夫	Mr.	Tauneo KOBAYASHI	教育統計	20021022	20041021	バタンバン	教育青年スポーツ省	バタンバン教育局	
69		SV	内海 幸雄	Mr.	Yukio Utsumi	自動車整備	20030401	20050331	バタンバン	教育青年スポーツ省	バタンバン職業訓練センター	
70		SV	北塚 勝之	Mr.	Katsuyuki KITAGAKI	グループデザイナー	20030401	20050331	バタンバン	教育青年スポーツ省	バタンバン職業訓練センター	
71		SV	安達 稔子	Ms.	Muteuko ADACHI	グラフィックデザイン	20030401	20050331	バタンバン	教育青年スポーツ省	バタンバン職業訓練センター	

ラオス国 ボランティア配置図

平成15年6月1日現在





ラオス国 ボランティア派遣情報一覧

平成15年6月1日現在

地区	No.	隊次	隊員/SV氏名	性別	隊員/SV氏名(英)	職種/指導科目	派遣期間～	派遣期間	任地	配属先省庁	活動先
3	1	131	川戸 渉	Mr.	Wataru KAWATO	農業土木	20010711	20030710	サバナケット県	農林省	県農林局灌漑課
3	2	131	中井 浩	Mr.	Hiroshi NAKAI	果樹	20010711	20030710	サバナケット県	農林省	県農林局ナーケー農業学校
7	3	131	廣瀬 東洋	Mr.	Toyoki HIROSE	農業土木	20010711	20030710	ウドムサイ県	農林省	県農林局灌漑課
1	4	131	金下 由貴	Ms.	Yukiko EGE	体育	20010711	20030710	ヴィエンチャン特	教育省	特別市体育教員養成学校
8	5	131	小川 菜つ	Ms.	Natsumi OGAWA	看護師	20010711	20030710	ルアンナムター県	保健省	県病院
2	6	131	藤田 栄子	Ms.	Eiko FUJITA	写真	20010711	20030710	ルアンババン県	情報文化省	県国立博物館
7	7	131	八倉 寿代	Ms.	Hisayo YAGURA	獣医師	20010711	20030710	ウドムサイ県	農林省	県農林局畜産水産課
8	8	132	磯部 俊治	Mr.	Shunji ISOBE	野菜	20011203	20031202	ルアンナムター県	農林省	県農林局農業課
9	9	132	本多 布美子	Ms.	Fumiko HONDA	看護師	20011203	20031202	サヤブリ県	保健省	県病院
3	10	132	松崎 玉枝	Ms.	Tamae MATSUZAKI	臨床検査技師	20011203	20031202	サバナケット県	保健省	県病院
4	11	133	西村 有永	Mr.	Arihisa NISHIMURA	看護師	20020408	20040407	チャンバサック県	保健省	県病院
9	12	133	藤原 英樹	Mr.	Hideki FUJIWARA	農業土木	20020408	20040407	サヤブリ県	農林省	県農林局灌漑課
4	13	133	大西 奈苗	Ms.	Nanae ONISHI	助産師	20020408	20040407	チャンバサック県	保健省	県病院
2	14	133	土山 曉代	Ms.	Akiyo TSUCHIYAMA	養殖	20020408	20040407	ルアンババン県	農林省	県農林局ナールアン養殖場
10	15	141	近森 章	Mr.	Akira CHIKANORI	食用作物	20020715	20040714	セコン県	農林省	県農林局農業課
6	16	141	小川 信一	Mr.	Shinichi OGAWA	農業土木	20020715	20040714	カムアン県	農林省	県農林局灌漑課
6	17	141	米川 明美	Ms.	Akemi YONEKAWA	看護師	20020715	20040714	カムアン県	保健省	県病院
7	18	141	山本 明子	Ms.	Akiko YAMAMOTO	看護師	20020715	20040714	ウドムサイ県	保健省	県病院
1	19	141	保坂 由美	Ms.	Yumiko HOSAKA	看護師	20020715	20040714	ヴィエンチャン特	保健省	特別市国立マホソット病院
1	20	141	山中 学	Mr.	Nanabu YAMANAKA	看護師	20020715	20040714	ヴィエンチャン特	保健省	特別市国立マホソット病院
4	21	141	久嶋 宏幸	Mr.	Hiroyuki HISAZIMA	数学教師	20020715	20040414	チャンバサック県	教育省	県教員養成学校
2	22	142	大野 和典	Mr.	Kazunori ONO	考古学	20021202	20041201	ルアンババン県	情報文化省	県国立博物館
1	23	142	友清 栄子	Ms.	Eiko TOMOKIYO	看護師	20021202	20041201	ヴィエンチャン特	保健省	特別市サイタニー郡病院
1	24	142	佐山 理絵	Ms.	Rie SAYAMA	助産師	20021202	20041201	ヴィエンチャン特	保健省	特別市サイセター郡病院
1	25	142	宮本 明輝	Ms.	Akimi MIYAMOTO	理学療法士	20021202	20041201	ヴィエンチャン特	保健省	特別市国立リハビリセンター
5	26	142	安藤 典子	Ms.	Noriko ANDO	看護師	20021202	20041201	シェンクワン県	保健省	県モンゴル友好病院
10	27	142	黒岩 裕樹	Mr.	Hiroki KUROIWA	養殖	20021202	20041201	セコン県	農林省	県農林局畜産水産課
1	28	143	今野 豊	Mr.	Yutaka KONNO	診療放射線技師	20030408	20050407	ヴィエンチャン特	保健省	特別市国立マホソット病院
2	29	143	黒田 千加	Ms.	Chika KURODA	看護師	20030408	20050407	ルアンババン県	保健省	県病院
2	30	143	川口 伸広	Mr.	Nobuhiro KAWAGUCHI	臨床検査技師	20030408	20050407	ルアンババン県	保健省	県病院
7	31	143	野中 大輔	Mr.	Daisuke NONAKA	感染症対策	20030408	20050407	ウドムサイ県	保健省	県保健局マラリアセンター
8	32	143	渡辺 佑	Mr.	Tasuku WATANABE	農業土木	20030408	20050407	ルアンナムター県	農林省	県農林局灌漑課
3	33	143	樋口 友子	Ms.	Tomoko HIGUCHI	病虫害	20030408	20050407	サバナケット県	農林省	県農林局農業課
5	34	15S	佐野 幸輔	Mr.	Kosuke SANO	養殖	20030504	20030807	シェンクワン県	農林省	県農林局畜産水産課

ラオス国 ボランティア派遣情報一覧

平成15年6月1日現在

地区	No.	隊次	隊員/SV氏名	性別	隊員/SV氏名(英)	職種/指導科目	派遣期間→	←派遣期間	任地	配属先省庁	活動先
3	35	SV	後藤 優	Mr.	Masaru GOTO	コーディネーター	20010515	20030514	サバナケット県	教育省	県技術短期大学
1	36	SV	小西 敦子	Ms.	Atsuko KONISHI	美容師指導	20010515	20030514	ヴィエンチャン特	青年同盟	特別市青年同盟青少年開発センター
1	37	SV	青木 清	Mr.	Kiyoshi AOKI	合気道	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	青年同盟	特別市青年同盟青少年開発センター
1	38	SV	大河 幸弘	Mr.	Yoshihiro OKAWA	電子機器	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	保健省	特別市医療機器サービスセンター
1	39	SV	黒木 方雄	Mr.	Rikio KUROKI	縫製	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	青年同盟	特別市青年同盟青少年開発センター
1	40	SV	瀬筒 勝二	Mr.	Katsuji SEZUTSU	廃棄物処理	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	公共事業省	特別市清掃センター
1	41	SV	奈良 輝行	Mr.	Teruyuki NARA	コーディネーター	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	教育省	特別市国立大学工学部技術研修センター
1	42	SV	広江 尚司	Mr.	Shoji HIROE	コーディネーター	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	保健省	特別市医療技術短期大学
1	43	SV	吉田 豊	Mr.	Yutaka YOSHIDA	センター運営管理	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	教育省	特別市国立大学工学部技術研修センター
1	44	SV	福田 正恵	Ms.	Masae FUKUDA	公衆衛生	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	保健省	特別市医療技術短期大学
1	45	SV	村方 千鶴	Ms.	Chizuru MURAKATA	臨床検査技師	20011127	20031126	ヴィエンチャン特	保健省	特別市医療技術短期大学
1	46	SV	片岡 清男	Mr.	Mitsuo KATAOKA	コーディネーター	20020409	20040408	ヴィエンチャン特	労働社会福祉省	特別市職業訓練センター
1	47	SV	友近 昭博	Mr.	Akihiro TOMOCHIKA	システムエンジニア	20020409	20040408	ヴィエンチャン特	青年同盟	特別市青年同盟青少年開発センター
1	48	SV	福井 敏博	Mr.	Shungo FUKUI	ラジオ音声	20020409	20040408	ヴィエンチャン特	情報文化省	特別市国営ラジオ局
1	49	SV	小原澤 榮子	Ms.	Eiko KOHARAZAWA	看護管理	20020409	20040408	ヴィエンチャン特	保健省	特別市国立マホソット病院
1	50	SV	徳永 年子	Ms.	Toshiko TOKUNAGA	薬学	20020409	20040408	ヴィエンチャン特	保健省	特別市医療技術短期大学
1	51	SV	堀端 俊雄	Mr.	Toshio HORIBATA	システムエンジニア	20020409	20040408	ヴィエンチャン特	教育省	特別市国立大学工学部技術研修センター
2	52	SV	清水 謙次	Mr.	Kenji SHIMIZU	英語教師	20020409	20040408	ルアンパバン県	青年同盟	県青年同盟青少年開発職業訓練センター
1	53	SV	高保 勝一	Mr.	Junichiro TOMIYASU	無線通信	20021120	20041119	ヴィエンチャン特	保健省	特別市保健省EPI
1	54	SV	木場 貞成	Mr.	Sadashige KOBA	医療機器在庫管理	20021120	20041119	ヴィエンチャン特	保健省	特別市医療品供給センター
3	55	SV	岩田 武	Mr.	Takeshi IWATA	木工	20021120	20041119	サバナケット県	教育省	県技術短期大学
3	56	SV	波多野 啓	Mr.	Keiji HATANO	道路・橋建設	20021120	20041119	サバナケット県	教育省	県技術短期大学
1	57	SV	岩城 和生	Mr.	Kazuo IWAKI	電子機器修理	20021120	20041119	ヴィエンチャン特	教育省	特別市国立大学工学部技術研修センター
1	58	SV	千葉 厚昌	Mr.	Atsumasa CHIBA	縫製	20021120	20041119	ヴィエンチャン特	労働社会福祉省	特別市職業訓練センター
1	59	SV	白鳥 弘道	Mr.	Hironichi SHIRATOR	電気機器修理	20021120	20041119	ヴィエンチャン特	労働社会福祉省	特別市職業訓練センター
1	60	SV	松永 保洋	Mr.	Yasuhiro MATSUNAGA	配電	20021120	20041119	ヴィエンチャン特	労働社会福祉省	特別市職業訓練センター
1	61	SV	杉本 神公	Mr.	Shinko SUGIMOTO	造園・緑地管理	20021120	20041119	ヴィエンチャン特	公共事業省	特別市公共事業局
1	62	SV	近江 秀幸	Mr.	Hideyuki OMI	グループコーチ	20030403	20050402	ヴィエンチャン特	保健省	特別市医療機器サービスセンター
1	63	SV	奈良 貞純	Mr.	Sadzumi NARA	GMPのための品質	20030403	20050402	ヴィエンチャン特	保健省	特別市第3製薬工場
1	64	SV	佐藤 秀雄	Mr.	Hideo SATO	ラジオ送信	20030403	20050402	ヴィエンチャン特	情報文化省	特別市国営ラジオ放送局
1	65	SV	菊池 正敏	Mr.	Masatoshi KIKUCHI	柔道指導	20030526	20050525	ヴィエンチャン特	国家スポーツ委員会	特別市国家スポーツ委員会



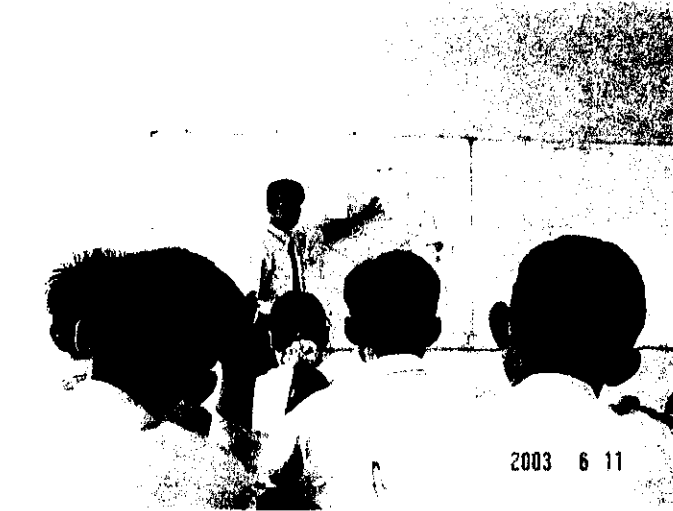
プノンペン  
計画省統計局にて  
右から  
水谷団長、  
北田隊員（13/3・コンピュ  
ータ技術）、  
柴沼隊員（13/3・統計）、  
三津間団員



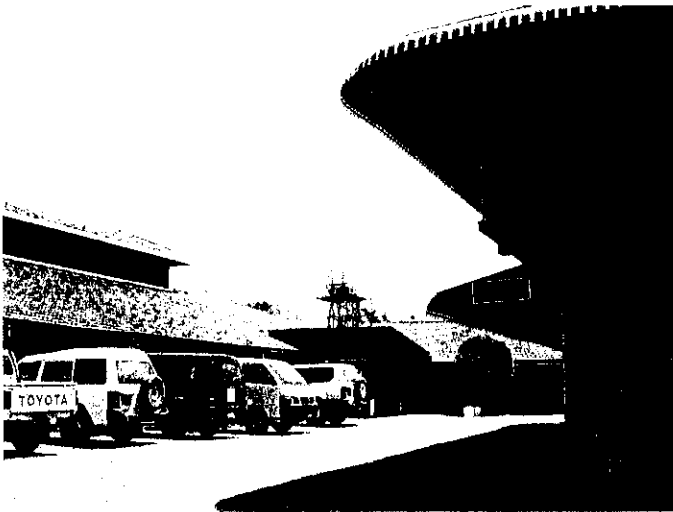
プノンペン大学日本語執  
務室にて  
右から鍵内隊員、森下隊  
員、宮崎隊員、C/P2 名、  
福田シニア隊員、C/P、小  
林隊員



プノンペン  
社会福祉省第 4 社会福祉  
センターにて  
亀山隊員（14/1・小学校教  
諭）の授業風景



プノンペン  
法律経済大学にて  
福田シニア隊員（14年度  
日本語教師）の授業風景



コンポンスプー州  
三角協カプロジェクト  
トラムクナーセンター



三角協カプロジェクトの  
識字教室風景



三角協カプロジェクトの  
衛生教室前にて

右から

三津間団員、菊池シニア隊  
員（14年度プログラムオ  
フィサー）、阿部山隊員  
（13/3・公衆衛生）、水谷  
団長、糸川調整員



シエムリアップ

プレ・エンコーサ中学校運  
動場にて

中山隊員（14/1・体育）の  
バスケットボール指導風  
景



シエムリアップ

アンコール幼稚園にて

右側が水口隊員（13/1・幼  
稚園教諭）



サヤブリ県立病院にて  
中央の左から若井調整員、  
本多隊員（13/2・看護師）



ルアンパバン県立病院に  
て  
右から  
三津間団員、川口隊員  
（14/3・臨床検査技師）、  
水谷団長、黒田隊員  
（14/3・看護師）



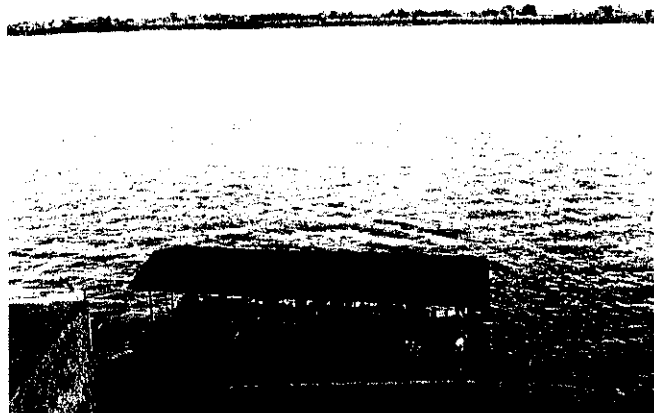
ヴィエンチャン特別市  
サイセター郡病院にて  
中央が佐山隊員（14/2・助  
産師）



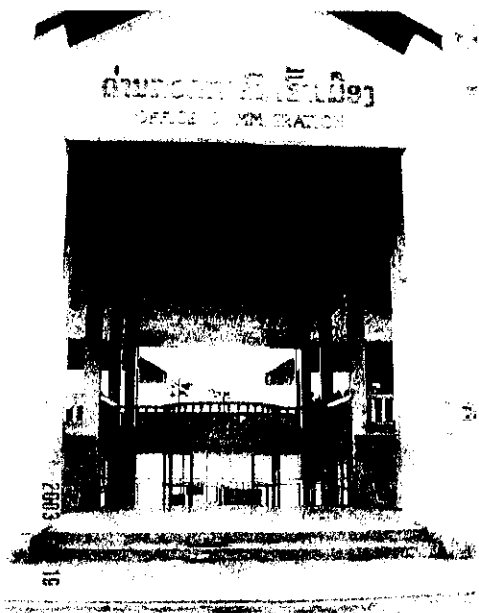
カムワン県病院にて  
右から  
水谷団長、小川隊員  
(14/1・農業土木)、若井  
調整員、米川隊員(14/1・  
看護師)



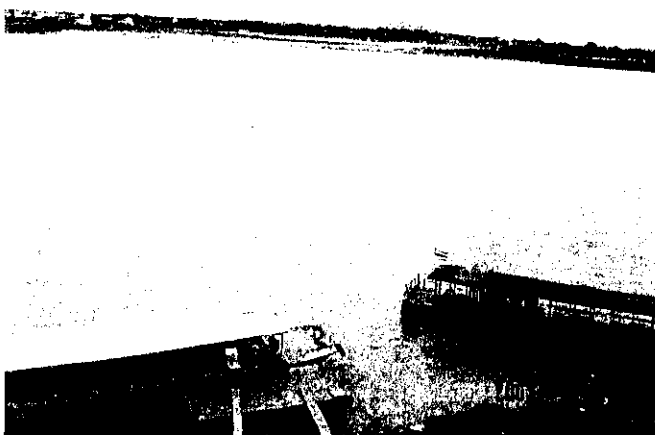
カムワン県タケークのイ  
ミグレーションオフィス



タケーク船着場  
対岸はタイ国ナコンパノ  
ム



サバナケット県サバナケ  
ットのイミグレーション  
オフィス



サバナケット船着場  
対岸はタイ国ムクダハン

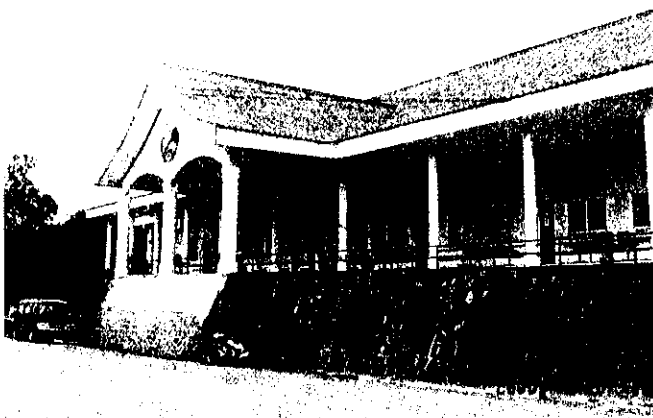


サバナケットにて  
右から水谷団長、松崎隊員  
(13/2・臨床検査技師)、  
中井隊員(13/1・果樹)、  
樋口隊員(14/3・病虫害)、  
川戸隊員(13/1・農業土木)





チャンパサック県パクセ  
市チャンパサック県病院  
にて  
左が大西隊員（13/3・助産  
師）



チャンパサック県ワント  
オのイミグレーションオ  
フィス



タイ・バンコクの  
Bangkok Hospital





## 第一章 調査概要

### 1-1 調査の目的

#### カンボジア：

カンボジアへの隊員派遣は1966年1月に開始され、2003年4月1日現在までに165名の隊員が派遣されている。2003年6月1日現在の派遣中隊員は34名である。

カンボジアへの隊員派遣は、教育文化部門が約73%を占め、日本語教育に関しては、今後、日本語教育の拠点であるプノンペン大学が日本語学科を立ち上げる予定であり、複数名の隊員が活動している。

#### ラオス：

ラオスへの隊員派遣は1965年12月に開始され、2003年4月1日現在までに462名の隊員が派遣されている。2003年6月1日現在の派遣中隊員は34名である。

ラオスでは、医療技術が立ち後れており、衛生環境も劣悪なところが少なくないが、こうした現状を改善すべく、保健衛生分野の隊員が多数派遣されており、全体の約48%を占めている。医療機器も電気も充分でない中での活動には課題も多い。

以上の背景を踏まえ、今回の調査は、以下事項を目的として派遣された。

(1) ラオスでは保健衛生分野、カンボジアでは日本語教師分野を中心に、派遣中隊員の活動現場視察と聴き取り調査を通して、治安面を含めた隊員活動の現状と問題点について把握する。

(2) 現地のJICA事務所にて、今後の派遣計画、隊員活動支援方針及び事務所のボランティア事業業務実施体制等について協議する。

### 1-2 調査団の構成

担当分野	氏名	所属
総括／事業運営	水谷 恭二	JICA 青年海外協力隊事務局海外第二課 課長
派遣計画	三津間由佳	JICA 青年海外協力隊事務局海外第二課 職員

## 1-3 調査日程

日付	曜日	訪問先
6月9日	月	成田ーバンコクープノンペン 事務所打合せ
6月10日	火	JICAカンボジア事務所訪問、協議 計画省統計局、プノンペン大学訪問 プノンペン大学学長表敬
6月11日	水	芸術大学、第4社会福祉センター、国立経営大学、 法律経済大学訪問 在カンボジア日本大使館表敬
6月12日	木	三角協力プロジェクト・トラムクナーセンター、ダムデック村、 プレイチャンバ村訪問 環境省公害管理局環境検査室訪問、JICAカンボジア事務所訪問
6月13日	金	プノンペンーシェムリアップ プレ・エンコーサ中学校、州観光局、地方観光事務所、 アンコール幼稚園、アプサラオーソリティー訪問
6月14日	土	シェムリアップービエンチャン
6月15日	日	ビエンチャンールアンパバンーサヤブリ
6月16日	月	サヤブリ県農林局、サヤブリ県病院訪問 サヤブリールアンパバン ルアンパバン国立博物館訪問
6月17日	火	ナルアン養殖場、ルアンパバン県病院訪問 ルアンパバンービエンチャン 在ラオス日本大使館表敬
6月18日	水	国立リハビリセンター、サイセター郡病院、 サイタニー郡病院、ラオス国立大学、日本ラオスセンター訪問 JICAラオス事務所訪問、協議
6月19日	木	ビエンチャンーカムワン カムワン県病院訪問 緊急移送ルート確認 カムワンーサバナケット サバナケット県病院訪問 緊急移送ルート確認 サバナケットーパクセ
6月20日	金	チャンパサック県病院訪問 緊急移送ルート確認 パクセーワンタオーチョンメックーウボンラチャタニーバンコ ク バンコク発
6月21日	土	成田着

1-4 主要面談者

1-4-1 カンボジア

王立プノンペン大学：

Pit Chamnan, Rector

Sethy Khem, Japanese Language Instructor, Institute of Foreign Languages

Seang Nimorl, Japanese Language Instructor, Institute of Foreign Languages

Pen Mouni Seila, Japanese Language Instructor, Institute of Foreign Languages

王立プノンペン大学フンセン図書館：

Sen Seng, Director

国立経営大学：

Leng Kimhok, Japanese Language Instructor

プレ・エンコーサ中学校：

Hong Huy Ean, Vice-Principal

環境教育・地方環境事務局：

Chev Phal, Director

アンコール幼稚園：

Iy Sotyery, Director

在カンボジア日本国大使館：

小川郷太郎大使、惟住智昭二等書記官

JICA カンボジア事務所：力石所長、染井次長、糸川調整員、田中調整員、水木健康管理員

1-4-2 ラオス

保健省サヤブリ県立病院：

Dr. Bounthiem, Director

Ms. Fin, Head Nurse

Dr. Sompon, Doctor

農林省サヤブリ県農林局：

Mr. Kongsy Vongsy, Deputy Director

ルアンパバン国立博物館：

Mr. Chanpheng Phattaphanh, Director

保健省ルアンパバン県立病院：

Dr. Sichanh Himpaphanh, Director

保健省 国立リハビリセンター：

Dr. ThongChanh Thepsomphou, Director

ヴィエンチャン特別市保健局サイセター郡病院：  
Dr. Boonthavy Detbanditt, Administration staff

ヴィエンチャン特別市保健局サイタニー郡病院：  
Dr. Khamma Panyachack, Director

ラオス国立大学：  
Assoc. Prof. Tuyen Dongvan

保健省チャンパサック県病院：  
Dr. Kamphou, Director

在ラオス日本大使館：平山周作一等書記官

ラオス国立大学経済経営学部及び日本人材育成センタープロジェクト：  
森戸規子専門家、高橋勉調整員

JICA ラオス事務所：西脇所長、和田次長、池田次長、小川企画調査員、上田調  
整員、小畑調整員、若井調整員、林田調整員、黒澤健康管理員

## 第二章 調査結果

### 2-1 カンボジア調査結果

#### 2-1-1 共通調査事項

事務所のボランティア調整員及び協力隊員への聞き取り調査等の結果をまとめた。詳細は別添1に記載の通り。

#### 2-1-2 隊員配属先訪問（プノンペン）

##### (1) 柴沼晃（13/3・統計・計画省統計局）

配属先は、職員 300 名程度の、官庁統計の中心的な拠点である。情報収集まではカンボジア人で対応可能であるが、集計・加工・統計資料としての完成までできる人材がいない。

隊員は、週 2 回、2 時間程度、授業形式で統計の知識を指導している。通常は、授業の準備や、1～2 名のスタッフに対し、指導を行っている。今後は、課長クラスの層にも知識を伝えていきたいと考えている。

##### (2) 北田薫（13/3・コンピュータ技術・計画省統計局）

計画省の 4 部署から 1 名ずつ選ばれた 4 名に対し、週に一度ホームページ立上げの指導を実施している。通常は、資料作りや、上記 4 名からの質問に答えるのが活動の中心である。現在の指導内容はマニュアル化し、4 名に手渡す予定である。

このほか、個人的活動として、カンボジアと日本の学校を結ぶインターネットライブ授業を実施している。

##### (3) 鎗内美奈（12/3・日本語教師・王立プノンペン大学）

プノンペン大学は 1960 年開学の唯一の総合大学。1994 年に初代隊員が日本語コースを開設以降、学生数も増加し、カリキュラムも整備されてきている。日本語コースは正規の授業とはなっていないが、大学から修了証が発行される。日本語コースの学費は、年間\$35。今後、日本語学科の設立がほぼ決定している。

隊員は、1、2 年生の会話授業、カンボジア人教師の教案作りを支援している。

##### (4) 宮崎智子（14/3・日本語教師・王立プノンペン大学）

カンボジア人教師と共に、3 年生の授業を担当している。調査団訪問時は、カンボジア人教師の授業に隊員が同席し、追って指導方法等について話し合う形式を取っていた。

##### (5) 小林由佳（14/3・日本語教師・王立プノンペン大学）

4 年生の授業を担当している。4 年生になっても、クラス内のレベル差が大きいことが課題である。

##### (6) 森下亜由美（14/3・日本語教師・王立プノンペン大学）

プライベートコースを担当している。授業料は\$14/月（週 3 回の授業）で、

大学側が徴収している。生徒が社会人のため、欠席者も多く、進度の調整が課題である。

プノンペン大学では、カンボジア人教師 5 名がいるが、1 名は日本へ留学中である。今後、日本語学科を立上げる場合、それに向けてさらにカンボジア人教師の養成が必要と思われる。

また、隊員からは、訓練所時代に日本語教育について研鑽を積む機会があれば望ましいという意見、また中古の辞書や教材の送料を JICA が負担する制度があれば望ましいとの意見が出された。

(7) 野口砂絵子 (14/1・コンピュータ技術・王立プノンペン大学附属フンセン図書館)

配属先は一般利用が可能な唯一の公立図書館である。現在は、蔵書の目録が紙ベースとなっているが、同目録をシステム化するのが隊員の仕事である。

現在は、イスラエルから提供された機材へのデータエントリを行っている。作業の手順についてマニュアルを作成し、スタッフに指導している。カウンターパートは 2 名いるが、午前・午後とも出勤しているため、指導しやすい環境にある。

(8) 堀麻衣子 (13/1・陶磁器・王立芸術大学)

配属先は、1918 年に創立された国内唯一の総合芸術大学で、学生数は約 1000 名である。学生は 3 年次から専攻に分かれ、陶芸学科は 1 学年 4 名程度である。学費は無料。

隊員は、月火水曜日は 3 年生、木金土曜日は 2 年生の授業を担当している。C/P1 名は午前・午後とも出勤している。卒業生の就職口が確保されていないことが課題である。

(9) 木野本まゆみ (13/3・音楽・王立芸術大学)

隊員は、大学生 4 名に対し、週一回声楽の指導を行うほか、中学生クラスへのリコーダー指導及びピアノ指導を行っている。その他、演奏会の実施も行っている。人材が足りないため、C/P とは別々に授業を担当しており、協力体制はほとんど無い。大学側には隊員の活動に対する理解度が低く、教室の確保が容易でない状況である。

(10) 亀山千景 (14/1・小学校教諭・第 4 社会福祉センター)

配属先は、プノンペン市内及び近郊に居住する低所得者層の子女への援助及び弱者（老人・障害者）の保護を行っている。スタッフは約 14 名。施設の子供は隣接する小・中学校に通っているが、二部制のため、午前・午後のどちらかは施設内の教室に来ることとなる。



隊員は、施設内の教室にて、子供 15、6 名に対する音楽・体育・図工・数学等の学習指導や、遊びを通じた授業を行っている。子供たちからは非常に慕われている様子であった。

(1 1) 齊藤幸代 (13/1・日本語教師・国立経営大学)

配属先は、一学年約 2000 名の大規模校である。日本語コースは大学の正式学科ではないが、大学から修了証が発行される。授業料は月\$3。

隊員は、4 年生の中級コースを週 4 コマ担当しているほか、C/P3 名の担当する授業に同席し、彼らの指導方法についてアドバイスもしている。

(1 2) 中井円香 (14/1・日本語教師・国立経営大学)

隊員は、週 5 コマの初級コースを担当しているほか、齊藤隊員と同様、C/P3 名の担当する授業に同席し、彼らの指導方法についてアドバイスもしている。

両隊員の担当授業は教室確保の問題から、昼休みの時間に行われており、時間も重なることから、互いの授業を見学し合うことは困難となっている。C/P1 名は大学から給料が出ているが、他 2 名は学生から徴収する実費代から充てている。円滑なコース運営のためにも、正式スタッフとして認めてもらうことが課題である。日本語コースが大学の選択科目程度にまでなると、日本語教育も盛んになるのではないかと考えているとのことであった。

(1 3) 福田智彦 (14 年度シニア隊員・日本語教師・法律経済大学)

配属先は、学生数約 4000 名、教職員数約 90 名の大学である。

隊員は、同大学の日本語コース立上げのため、コース説明、カリキュラム作成、選抜試験の実施、コース運営等を行ってきた。現在、カンボジア人教師と日本人教師が担任をしている 4 クラスの授業を部分的に担当しつつ、コース運営を行っている。C/P への給料は大学側から支払われないため、学費 (2 クラスが年間\$24、2 クラスが年間\$40) から充てており、コース存続のための経済的裏づけがないのが課題である。

プノンペン大学に日本語学科が設立されれば、プノンペン大学が日本語教育の拠点となるであろうが、一方で法律経済大学では、法律を学ぶために日本へ留学する学生もいることなどから、別の意味で重要と考えているとのことであった。

(1 4) 高嶋成治 (13/3・人口・環境問題環境省)

配属先は、公害管理局環境検査室。隊員は、分析手順・試薬リスト等のマニュアル作成、検査室の管理、分析業務等を行っている。スタッフは約 8 名であるが、午後は不在のことも多い。個室も与えられ、待遇は良いが、指摘した事項を聞き入れてもらえないこともある。また、有害物質の処理が遅れているた

め、検査室から有害物質をそのまま排水として流している現状であることも、問題と感じている。

### 2-1-3 隊員配属先訪問（三角協力プロジェクト）

1992年のASEAN拡大外相会議における日本の提案を踏まえ、帰還難民の定住促進と当該地域の農村振興のために企画されたプロジェクトである。現在はフェーズ4で、コンポンスプー州、タケオ州地域住民の生活向上を目的としている。1. 農村開発、2. 生計向上、3. 教育向上、4. 公衆衛生の普及が主な柱。今後、2004年3月の終了に向けてどのような協力活動を行っていくのが課題となる。農村開発省がNGOを立ち上げて引きつぐとの話も出ている。

Skill Development、Special Localization、Community Organizationの3コンポーネントのうち、隊員はSkill Developmentに属しているが、菊池シニアのみCommunity Organizationに属している。JOCVチーム内では、週一回程度のミーティングの機会を設けている。アセアン専門家とのミーティングも必要に応じ開催している。

#### （1）菊池匡（平成14年度シニア隊員・プログラムオフィサー）

労働参加者に労賃を米で支給するFood for Workの一環としての溜池採掘4件、水路修理1件の現場のモニタリング、トラムクナーセンターでの報告書作成、JOCV活動の取りまとめ等が主な業務である。

#### （2）城井芳子（14/1・陶磁器）

協力対象村のダムデック村では主要な産業が陶磁器製作であるが、手ろくろで製作した壺を一つ500リエル程度で販売し、月に\$24程度の収入を得ている。

隊員は現在、陶芸教室の卒業生2名を対象に、C/P1名と共に陶芸の技術指導を行っている。今後は、販売ルートを確認することが課題と感じている。

#### （3）辻香織（13/3・婦人子供服）

隊員は、対象村にて、10～15名程度の受講者にドレスメイキングのベーシックトレーニング、アドバンストレーニング、アソシエーショントレーニング授業を実施するほか、コンピセイサブセンターにて、エンプロイメントトレーニングの実施、トラムクナーセンターにて報告書作成、教材政策等の活動を行っている。修了者のその後のフォローが容易でないのが課題である。

#### （4）鹿野仁子（13/2・識字教育）

隊員は協力対象の7カ村にて、週一回程度ずつ、巡回指導する形で教育事務所出身のC/P2名とともに識字教室運営に協力している。識字教室の教師は村から選定したカンボジア人である。対象は子供で8歳以上、大人向けで13歳以上45歳までで、女性や生活困難者が優先となる。最終試験に合格すると、地方教

育事務所から修了証、農村開発プロジェクトから証明証が発行される。識字教育が最も必要な貧困層は出稼ぎ等で教室に出ることができないが、今後どのように彼らを巻き込むかが課題である。

(5) 阿部山優子 (13/3・公衆衛生)

公衆衛生では、井戸建設、トイレ建設、健康教育の実施が主な業務であり、徐々に成果を上げてきている。健康教育教室は、研修を経た村のボランティアが講師となり、月一回程度、女性を中心に実施している。ボランティアが育ってきているため、今後は彼らが自主的に活動できるよう配慮して支援を行っている。プロジェクト修了に向けて政府側との連携を取るため、国営ヘルスセンターへの活動紹介も開始している。

2-1-4 隊員配属先訪問 (シェムリアップ)

(1) 中山晴美 (14/1・体育・プレ・エンコーサ中学校)

配属先は、1984年に開校した中学校。

隊員は、週18コマの体育の授業を担当し、学校の外部にある運動場で、バスケットボール、バレーボール、サッカー等の指導を行っている。C/Pとなる体育教師が不在であるが、教育省スポーツ局長とは連絡を密に取っており、スポーツ教育についての意見交換を行える体制にある。

(2) 斉藤都 (13/3・日本語教師・シェムリアップ州観光局)

配属先は、アンコール遺跡への観光客誘致や入場料の徴収を主な事業とする機関。

隊員は、初級及び中級の授業を月～金まで担当していたが、現在は初級クラスのみ、一日2時間で月～金まで授業を行っている。初級クラスが修了次第、8月頃から中級クラスを再開する予定である。生徒の中にはガイドライセンス取得者もいるが、ライセンス取得の基準が確立していないため、クラスの目標を定めることが難しい。後任派遣は予定していないとのことであった。

(3) 加藤真希 (13/3・環境教育・地方環境事務局)

配属先は、環境汚染調査・環境教育部門。

隊員は、C/Pとともに遺跡エリアの4小学校に対する環境教育授業を木曜日に実施するほか、エコツーリズムのための樹木調査で収集した標本の加工作業を行っている。通常は、授業の準備や環境教育手引きの作成作業を行っている。

配属先には環境教育授業に参加できる職員が2名しかいないため、職員の養成が必要なこと、また環境教育の授業に際して講師向けの報酬を支払えないことが課題と感じている。

(4) 水口師昭 (13/1・幼稚園教諭・アンコール幼稚園)

配属先は、シェムリアップ最大の公立幼稚園で、園児は約200名。

隊員は、朝の体操の時間を担当するほか、7つあるクラスを巡回しながら、遊びを通じた教育方法の紹介をしている。9月には、シムリアップの幼稚園教諭を対象に、セミナー開催を計画している。シムリアップ地区の幼稚園の数が絶対的に少なく、キャパを越えた数を受け入れなくてはならないこと、隊員の活動に対する教育局の理解が低いことが課題と感じている。

(5) 北川禎之 (14/2・コンピュータ技術・アンコール地域遺跡整備機構 (アプサラ機構))

配属先は、各国の遺跡修復活動や開発活動などの管理調整とともに、遺跡の調査発掘、保存修復、観光開発、文化伝承などを手がけている。

隊員は、C/P2名とともに、JICAプロジェクトの残した紙地図をGISデータ反映し、地図を修正する作業のほか、週3回程度は屋外にて、地図上の村の位置をGPSで確認し、データに落とし込む村落調査を行っている。また、配属先の新入社員に対し、GISの個別指導を週1回行っている。

次々と道路・ホテル等が建設される中での地図の現行化、及びGISソフトの期限が切れた後のソフトの確保が課題と感じている。

## 2-2 ラオス調査結果

### 2-2-1 共通調査事項

事務所のボランティア調整員及び協力隊員への聞き取り調査等の結果をまとめた。詳細は別添2に記載の通り。

### 2-2-2 隊員配属先訪問（サヤブリ）

ルアンパバンから車で約3時間。2004年3月までは電気が18:00～23:00までしか来ていなかったが、現在は24時間確保されている。

#### (1) 本多 布美子 (13/2・看護師・保健省サヤブリ県立病院)

配属先の4科（内科・外科・小児科・産婦人科）を一ヵ月ごとに巡回し、各科ごとの報告書の中で改善点につき提言を行っている。提言したことがすぐに日常業務に反映されるのは難しいのが現状であるが、今後は看護記録作成の徹底に力を入れて行きたいとのことである。

なお、フロントライン計画で導入された機材はよく活用されている。

#### (2) 藤原 英樹 (13/3・農業土木・農林省サヤブリ県農林局)

灌漑課に所属し、C/Pとともに灌漑対象地域の農民に対する要望調査を行っている。具体的には、農民を集めてアンケート調査を実施し、灌漑事業の実施に際して彼らが求めるトレーニング（乾季の稲作、施肥、農薬、畑作、畜産等）の内容を調査している。このほか、孤児と少数民族を集めた学校と日本の団体との橋渡しや、本多隊員と協力しての日本語教室の実施、他分野のラオス隊員と協力してのラオ語専門用語辞書製作を行っている。

### 2-2-3 隊員配属先訪問（ルアンパバン）

北部の中心都市。街全体が世界遺産に指定されている。外国人観光客向けの店も多数あり、生活に不便は無い模様。

#### (1) 大野 和則 (14/2・考古学・情報文化省国立博物館)

展示前の収蔵品のナンバリングと登録が現在の主な業務である。このほか、展示物の管理や展示方法についても助言を行っている。博物館側の、隊員に求める具体的な協力内容が明確でないこと、またラオス国が国として文化財をどのように見せていくかという方針が不明確なに問題を感じている。また建物へのシロアリ被害が深刻なため、早急な対応が必要と感じている。今後は、展示物に関する照明の設置方法、案内板の作成等を行うほか、同博物館に配属されている写真隊員との連携を深めて行きたいとのことであった。

#### (2) 土山 暁代 (13/3・養殖・農林省ルアンパバン県農林局ナールアン養殖場)

15年勤続の職員であるC/Pに対し、水温・稚魚数・稚魚売り上げ数等の記録の付け方、そのためのコンピュータの使い方を指導している。また、北部農業

短大の学生に対する卒論指導も行っている。このほか、採卵後の卵が稚魚として育つ割合のデータも取っている。C/P に比べ年齢が若いため、意見を容易には取り入れてもらえないことが課題。施設は古い日本の援助で入っており、日本式の養魚場であるため親しみやすかったとのことである。

(3) 川口 伸広 (14/3・臨床検査技師・保健省ルアンパバン県立病院)

検査室に所属し、1日に40件程度ある血液検査の実施方法及び分析方法等について指導を行っている。スタッフは臨床検査技師と看護師併せて9名。配属されて3週間程度であるため、現状に慣れつつ今後の活動方針を探っている段階である。海外からの援助で医療機材は多く入っているが、使い方をマスターできていないスタッフもいるため、機材の使用方法に関するトレーニングを行うことも必要と感じている。

(4) 黒田 千加 (14/3・看護師・保健省ルアンパバン県病院)

看護管理部に所属している。配属されて3週間程度であるため、現状に慣れつつ今後の活動方針を探っている段階。今後は各科を巡回して問題点を見つけて行きたいとのことである。C/Pは未定であるが、看護次長となる見込みである。

ルアンパバン県病院は、2003年9月に外人用クリニック、眼科、母子保健科以外は新しい建物に移転する予定である。移転先は、車で10分程度の場所があり、現在中国からの援助によって建設が進められている。移転に関連し、川口隊員、黒田隊員に単車を貸与することの妥当性については今後要検討。

#### 2-2-4 隊員配属先訪問 (ビエンチャン)

(1) 宮本 明輝美 (14/2・理学療法士・保健省国立リハビリセンター)

入院科、外来、小児科を1ヶ月ずつ巡回したあと、現在は入院科にて担当患者を診ているが、C/Pが未定であること、配属先のJOCV理解度が低く、隊員に求める活動内容が不明確であることが課題である。隊員は、理学療法士スタッフを対象とした勉強会の開催を計画しているほか、週一回程度、障害者学校を訪問し、活動の場を探そうとしている。来月中をめどに、JICAからもC/Pの配置や、隊員への期待について確認する予定である。

(2) 佐山 理絵 (14/2・助産師・保健局ヴィエンチャン特別市保健局サイセター郡病院)

母子保健科にて、医師をC/Pとし、妊婦検診の実施等の通常業務を行いつつ、アドバイスを行っている。患者は一日20名程度、分娩は月に1~2件と非常に少なく、助産師の要請そのものに疑問を感じているが、通常業務のほか、母子保健科の研修生に対する母子保健に関連の指導も精力的に行っている。今後は、ヘルスポストを巡回し、技術レベルを確認しつつ、貧困地域での保健指導を行

いたいと考えている。

(3) 友清 栄子 (14/2・看護師・保健省ヴィエンチャン特別市保健局サイタニー郡病院)

救急科にて、看護師として日常業務を行うほか、清潔操作、物品管理の指導を行っている。毎週全看護スタッフのミーティングがあり、業務上の反省点につき話し合う場が設けられている。海外からの援助で機材は多く入っているが、それが有効に管理・活用されていないことが課題である。母子保健科は協力隊員の活動や訪日研修により成果が上がっており、比較的充実している。今後は、内科へ移って指導を行いつつ、病院全体のシステムを改善していきたいと考えている。前任者が指導した注射針等ゴミの分別廃棄が行われているほか、徳島県・高知県での研修に参加したスタッフが3名おり、協力隊への理解がある病院であった。

#### 2-2-5 隊員配属先訪問 (カムワン)

(1) 米川 明美 (14/1・看護師・保健省カムワン県病院)

小児科に配属され、C/Pを小児科婦長と看護副部長として活動しているが、現在は他科を1週間ずつ巡回し、清掃、清潔操作、シーツ等保管状況、ごみの分別等の基本事項を確認し、病院全体で統一されたシステムを築きたいと考えている。また、患者の急変の場合の対応についても指導していきたいと考えている。

このほか、単車を利用して学校検診や産後検診などに同行している。

#### 2-2-6 隊員配属先訪問 (サバナケット)

(1) 松崎 玉枝 (13/2・臨床検査技師・保健省サバナケット県立病院)

検査室にて、血液検査業務を中心に活動している。特定のC/Pはいないが、常時4~5名のスタッフに対し、指導を行っている。海外からの援助や政府からの機材が多数入っているが、それらのメンテナンス・修理が課題と感じている。また、検査室は長年の協力によってレベルが上がっているが、他のセクションとも協同して行きながら病院全体のレベル向上に努めたいとのことである。

#### 2-2-7 隊員配属先訪問 (パクセ)

(1) 西村 有永 (13/3・看護師・保健省チャンパサック県病院)

手術室にて、主任看護師をC/Pに活動を行っている。一日の平均手術件数は8件で、大半が交通事故である。毎朝、看護師13名、医師7名にてカンファレンスを行う場で、日常業務の問題提起を行うほか、新人看護師への指導を行っている。機材が不足していること、優秀な看護師が現場に残らず、管理部門に配

属されてしまい、常に経験の少ない看護師が現場を切り盛りしていく体制が問題と感じている。

(2) 大西 奈苗 (13/3・助産師・保健省チャンパサック県病院)

産婦人科にて、看護師 1 名を C/P に活動を行っている。毎朝のカンファレンスの際に 20~30 分程度の講義を行うほか、日常業務の実践の中で産前・産後の指導を行っている。また本病院には多くの看護実習生が来るため、彼らへの指導も行っている。年齢が若いという理由で容易には意見を聞き入れてもらえないこと、ラオス人スタッフに古い方法を変えていこうとする意識が低いことが課題と感じているが、最近母子保健センターにて妊婦検診、新生児検診の指導も開始している。

なお、2 名からは、卒業したばかりで実務経験の無い講師が看護学校で学生を教えているなど、ラオスの医療系教育システムが確立されていないことも、医療レベルが向上しない理由の一つであるとして問題が提示された。

#### 2-2-8 緊急移送ルート

(1) カムワン県タケークータイ国ナコンパノム

カムワン県の隊員に移送の必要が生じた場合のルート。

メコン川沿いにタケークイミグレーションオフィスがあり、出国手続の後、階段を下りて船着場からボートで、対岸のタイ国ナコンパノムへ渡る（所要時間約 15 分）。ボートは人が集まった時点で出航するしくみ。緊急の場合は、この限りではない。医師の診断書や依頼書があり別料金を支払えば特別に出してくれることもある。50m 程度離れたところに川面まで降りていく道があり、車ごと渡れるボートもある。ボート代は 12000 キップもしくは 50 バーツ。収容する病院は、傷病の程度等により以下となる。

・ナコンパノム Governmental Hospital

・ウドンタニ（ナコンパノムから陸路で 1 時間程度） Aek Udon International Hospital

・バンコク（ウドンタニから飛行機） Bangkok Hospital

(2) サバナケット県サバナケットータイ国ムクダハン

サバナケット県の隊員に移送の必要が生じた場合のルート。

メコン川沿いにサバナケットイミグレーションオフィスがあり、出国手続の後、階段を下りて船着場からボートで、対岸のタイ国ムクダハンへ渡る（所要時間約 15 分）。ボートは人が集まった時点で出航するしくみ。緊急の場合は、この限りではない。医師の診断書や依頼書があり別料金を支払えば特別に出してくれることもある。ボート代は 12000 キップもしくは 50 バーツ。収容する病



院は、傷病の程度等により以下となる。

- ・ムクダハン Mookdahan International Hospital
- ・ナコンパノム（ムクダハンから陸路で1時間程度）Governmental Hospital
- ・ウボンラチャタニ（ムクダハンから陸路で2時間程度）Ubolrak Tonbury Hospital または Rajchavej Unolratchatani Hospital
- ・バンコク（ナコンパノムまたはウボンラチャタニから飛行機）Bangkok Hospital

### (3) チャンパサック県ワンタオータイ国チョンメック

チャンパサック県の隊員に移送の必要が生じた場合のルート。

パクセより約45km地点のワンタオイミグレーションオフィスにて出国手続後、徒歩で国境を越え、タイ国チョンメックイミグレーションオフィスにて入国手続きを行う。イミグレーションでの手続の所要時間は両国併せて約20～30分。チョンメックからウボンラチャタニまでは約90km。収容する病院は、傷病の程度等により以下となる。

- ・ウボンラチャタニ Ubolrak Tonbury Hospital または Rajchavej Unolratchatani Hospital
- ・バンコク（ウボンラチャタニから飛行機）Bangkok Hospital

### 2-2-9 その他

ラオス国立大学にて実施中の「ラオス国立大学経済経営学部及び日本人材育成センタープロジェクト」オフィスを訪問し、2003年9月より日本語学科設立に向け準備中であることを確認した。大学側は日本語学科設立への支援のための協力隊員派遣を要望しているが、本件については今後事務所と協議の上対応を検討することとした。

## 別添資料

1. 共通調査事項（カンボジア）
2. 共通調査事項（ラオス）
3. ラオス国立大学経済経営学部  
及び日本人材育成センタープロジェクト概要表
4. ラオス国立大学日本語学科カリキュラム案
5. ラオス緊急移送ルート図

ラオス・カンボジア JOCV巡回指導調査・共通調査事項 調査結果(カンボジア)

k	2. 調査内容	3. 調査事項	6. 調査結果
1) 隊員の現地活動の  実態把握	1-1) 隊員の職場での活動	1-1-1) 勤務時間・環境・業務内容	およそ8:00-11:30, 13:30-16:30という勤務時間があるものの、自由度は比較的高い。昼休みは自宅に戻る隊員が多い。個室を与えられている隊員もあり、受け入れ先の期待度の高さが窺える。
		1-1-2) 言語・コミュニケーション	配属先や職種により、クメール語使用の隊員と、英語使用の隊員がいるが、不自由の無いコミュニケーションを維持している。クメール語もしくは英語の習得に、語学学校に通ったり、個人授業を受けている隊員も多い。
		1-1-3) 技術レベルの適否	概ね、各隊員の持つ能力、経験の範囲で対応できている。
		1-1-4) 配属先の受入体制・予算措置	一部隊員の活動に無関心である旨発言する隊員もいたが、すべて活動場所を用意しており、予算面を除けば受け入れ体制は整備されている。なお、カウンターパートがアルバイトをしている場合も多く、午前中しか職場に来ない等の状況はある。
		1-1-5) 要請背景調査の精度・問題点	特に問題点を指摘する隊員はいなかった。必ずしも現状と一致しない場合もあるが、柔軟に考えるよう隊員にも指導しており、特に問題はない。
		1-1-6) 隊員の上京・事務所訪問の頻度	健康診断が年2回のため、最低でも年2回は上京の機会がある。隊員によっては、業務出張等で頻繁に上京する場合もある。シアヌークビル・シェムリアップは廉価なバス便があり、行き来しやすい。隊員ドミトリーは事務所から車で10分程度の場所にあり、調整員は週に一回、時間を事前に通知の上、ドミトリーを訪問することとしている。
		1-1-7) 隊員自身の満足度	治安状況、生活環境の良さと活動の自由度から、満足度はきわめて高い。
	1-2) 隊員の生活環境	1-2-1) 隊員住居の状態・住宅手当の妥当性	三角協力プロジェクト配属の隊員を除き、すべてJICA負担となっている（E/Nに住居事項なし）。多くの隊員は、大家と同じ建物または近隣の建物の1フロアを借りており、大家と緊密な関係を築いている。安全性については、調整員・ナショナルスタッフ・安全クラークにて確認を行う体制にある。住宅手当は\$300であり、1~2LDK（家具付）\$250~300で契約している隊員が多い。
		1-2-2) 現地物価水準・派遣手当額の妥当性	公務員給与が月額約\$20程度、一家族の一月あたりの生活費が約\$150と言われる。現状\$410の海外手当はややゆとりがあると思われるが、改定については実施中の物価・生活費調査の結果を踏まえて検討する。
		1-2-3) 余暇・職場外活動・精神衛生状態	買い物、スポーツ、隊員同士で出かける等が多い。暑い気候のため、休養に充てられることも多い。隊員ドミトリーもよく活用されている。
		1-2-4) 交通事情・保健衛生	隊員は通勤の際、自転車またはモトドップ（バイクタクシー）を利用しているため、移動の際には十分注意が必要である。
		1-2-5) 治安・安全確保	反政府運動等の動きはないが、一般犯罪は多い。夜間（21:00以降）は出歩かないよう事務所が指導しており、隊員自身も留意して生活している。

ラオス・カンボジア JOCV巡回指導調査 共通調査事項 調査結果(カンボジア)

k	2. 調査内容	3. 調査事項	6. 調査結果
2) 在外事務所(所員調整員)の事業実施体制の実態把握	2-1) 事務所内の業務体制	2-1-1) 業務分掌・配置人員の適正度	隊員34名、SV38名計72名に対し、調整員3名、ナショナルスタッフ2名で必要十分な体制である。糸川チーフのもと、隊員を菊池調整員、SVを田中調整員が担当している。担当所員はなく、所長・次長が直営している。事務所全体では、所長、次長2名、所員4名、調整員3名、健康管理員1名。
		2-1-2) 事業予算額の過不足の有無	現地支援費を含め現状で妥当。
		2-1-3) 機材現地調達の実施状況	現地調達も可能であるが、隊員分についてはそれほど例がなく、特に問題なし。
	2-2) 所員/調整員の執務環境	2-2-1) 勤務時間・事務量・出張の頻度	勤務時間は8:00-12:00、14:00-17:00。恒常的に2時間程度の残業。
		2-2-2) 業務用機器の充足度	昨年12月に移転したばかりであり、各自の机上にノートパソコン、壁面キャビネットにファイルが整然と整理されており、充実した執務環境である。
		2-3) 情報共有/連携体制	2-3-1) 事務合理化努力の実績
	2-3-2) 地方巡回の頻度		多くて月1回以上、通常は3ヶ月に1回程度、要請背景調査、隊員赴任時の付き添い、活動中隊員の巡回等で出張がある。
2-3-3) 隊員総会・各種会議の開催状況	隊員総会は年一回、活動報告会は年一回の頻度で開催される。		
3) 在外事務所(所員調整員)との意見交換	3-1) 隊員活動現況	3-1-1) 事務所による隊員モニタリング体制	特に規定はないが、隊員自身が報告してくる場合はそれをフォローするほか、報告の無い隊員については事務所から様子を聞いたり、配属先訪問するなどして対応している。
	3-2) 今後の協力重点課題と員派遣計画	3-2-1) 国別援助実施計画との整合性	必ずしも当てはまらない分野も多い。国別事業実施計画の方針には従いつつ、当てはまらない分野についても、これまで通りしばらくは派遣を行う方針。
		3-2-2) 隊員派遣計画の修正・確認	公募性のため、人材確保の保証が無い協力隊員の派遣計画を、国別事業実施計画に盛り込むことについては、事務所より懸念が表明された。また、協力隊独自の、配属先における活動以外の自由な活動についての整理の仕方について課題が示された。
	3-3) 新規要請開拓の実施方針	3-3-1) 要請背景調査の実態	継続の場合は、活動中隊員及び配属先への聞き取り調査を実施する。新規の場合は、配属先候補を複数回訪問し、調査を実施している。
		3-3-2) 今後の開拓有望分野	派遣地域について、地方展開する場合、東北部への派遣の可能性はある(インフラ未整備、緊急移送ルートの確保が今後の課題)。職種については、国別事業実施計画の方針に沿うものを開拓していく方針である。
	3-4) 治安対策、非常時対応	3-4-1) 現地で可能な通信連絡手段	隊員には、携帯電話及び無線機を貸与しているほか、地方隊員については、一地区に衛星携帯電話及びJICA事務所との送受信が可能な広域中継無線機を一台づつ配備しているなお、三角協力プロジェクトにも同様の設備が設置されている。
		3-4-2) 治安関連情報の収集体制	大使館の安全対策会議(月1回)、安全クラーク(現地警察官を雇用)の報告、現地新聞、UNDPのインフォメーション等の情報に基づき、事務所でも月1回の安全対策会議を開いている。
		3-4-3) 緊急事態への即応準備体制	緊急連絡網に沿って連絡し、安全確認する体制となっている。月一回、専門家、SV、JOVCVに対し、緊急連絡シュミレーションを実施している。
		3-4-4) 最近の被害事例と対応策	携帯電話の盗難や、接触程度の交通事故が頻繁に発生する隊員へは、逐次注意喚起を行っている。
	3-5) その他懸案事項	3-5-1) 事務所側の希望事項(あれば)	総合所見の活用について、専門家希望の隊員を盛り込んでいくなど、有望な人材はJICA全体で情報共有していくべきとの提案があった。

ラオス・カンボジア JOCV巡回指導調査 共通調査事項 調査結果(カンボジア)

k	2. 調査内容	3. 調査事項	6. 調査結果
4) 受入国窓口機関、 隊員配属先との意 見交換	4-1) 協力隊事業に対する	4-1-1) 隊員に対する配属先からの評価	面談した配属先上司は、一様にクメール語の会話力、勤勉な活動を高く評価している。
		4-1-2) 協力隊事業の認知度・報道実績等	JICAの知名度は高いが、協力隊員に関する報道はほとんど無し。
	4-2) 今後要望/提言の聴取	4-2-1) 今後協力を求める分野の有無	受け入れ窓口からの情報は未入手。
5) 一般調査事項	5-2) 交通安全対策関連	5-2-1) 現地の一般的な交通事情	道路には車、単車、自転車、リキシャ等が溢れ、かつ秩序無く走るため(逆走、突然の右左折)、慣れが必要である。 長距離の移動は航空便かバス便。例えば、プノンベン-シェムリアップの空路は一日二便、片道\$55で所要時間は30分、バスは\$5で所要時間は7時間。
		5-2-2) 車両貸与の実態・管理状況	単車・自転車の貸与は実施していない。
		5-2-3) 交通安全委員会の活動状況	委員長(4~6ヶ月の任期)をJOVCV内で決め、現地訓練中に講習を行うなどしている。
	5-3) 政治、経済、社会情勢	5-3-1) 国会会期・政権抗争の現状等	総選挙が近づいているが、大方の予想は現ファンセン政権の継続と見られている。
		5-3-2) 物価上昇率・景気関連情報等	為替レートはUS\$1=4000リエルでここしばらく固定されており、急激な物価の変動はなく安定している。
		5-3-3) デモ・ストライキ情報等	一部民間工場における待遇改善のストライキがある程度で、通常はほとんど無い。総選挙(2003年7月27日)前に何かが起こる可能性はある。
		5-3-4) 現地の一般的な住宅事情	

ラオス・カンボジア JOCV巡回指導調査 共通調査事項 調査結果 (ラオス)

1. 調査の目的	2. 調査内容	3. 調査事項	6. 調査結果
1) 隊員の現地活動の実態把握	1-1) 隊員の職場での活動	1-1-1) 勤務時間・環境・業務内容	およそ8:00-12:00、14:00-16:00という勤務時間があるものの、ラオス人は午後は出勤しない場合が多いため、彼らの勤務振りに不満を持つ隊員も多い。個室を与えられる場合もあるが、多くは大部屋に個人の机を与えられている。
		1-1-2) 言語・コミュニケーション	使用言語はラオ語。時折、ミーティングで英語、専門用語で仏語を使用する場合もある。隊員は、ほぼ不自由の無いコミュニケーションを維持している。
		1-1-3) 技術レベルの適否	概ね、各隊員の持つ能力、経験の範囲で対応できているが、年齢が若いという理由で、容易には意見を聞き入れてもらえないケースは散見される。
		1-1-4) 配属先の受入体制・予算措置	一部隊員の活動に無関心である、もしくは受身である旨発言する隊員もいたが、受け入れ体制は概ね整備されている。配属先に十分な予算が無い場合が多いが、隊員支援経費の支給に際しては、2~3割は配属先にも負担してもらうよう指導している。
		1-1-5) 要請背景調査の精度・問題点	適切な職種の見直しや、配属先が隊員に求める内容について、具体性に乏しい旨問題点を指摘する隊員もあった。
		1-1-6) 隊員の上京・事務所訪問の頻度	隊員総会(兼健康診断)が年2回のほか、半年に1回のビザ更新、年1回のID更新の際には必ず上京の機会がある。隊員によっては、私費で上京する場合もある。医療系隊員は、セミナーで上京する場合もある。隊員ドミトリは事務所敷地内に併設されており、上京の際に利用されている。
		1-1-7) 隊員自身の満足度	34名中、10名程度は、受け入れ希望調査票の内容と現状が異なることを問題視しているが、個々の課題はありつつも、自分なりに前向きに活動に取り組んでおり、配属先変更の希望は現在のところ出されていない。
	1-2) 隊員の生活環境	1-2-1) 隊員住居の状態・住宅手当の妥当性	E/N上はラオス側が住居提供することが記載されているが、34名中、配属先からの住居提供があるのは2名のみ。ただし、仮にラオス側が住居提供したとしても、安全面・衛生面を満たさない場合が多いと予想される。多くの隊員は、大家の敷地内の一軒家(1LDK等)やゲストハウスを\$200~250で契約している。安全性については、隊員が探してきた物件を事務所(総務班)が警察に大家の素性や地域の安全チェックを依頼している。大家への支払いは、JICAから3ヵ月毎の前払いで直接行っている。住宅手当の上限は\$250。配属先提供がある場合と、住宅手当支給の隊員の住居レベルの格差が大きく、今後の課題。首都の\$250は妥当と思われるが、地方部については今後要検討。
		1-2-2) 現地物価水準・派遣手当額の妥当性	公務員給与が月額約\$20程度、一家族の一月あたりの生活費は約\$100程度と思われる。現状\$330の海外手当はややゆとりがあると思われるが、改定については実施中の物価・生活費調査の結果を踏まえて検討する。
		1-2-3) 余暇・職場外活動・精神衛生状態	家事、買物、スポーツ、隊員同士で出かける、ラオ人と出かける等が多い。休養に充てられることも多い。職場外活動で日本語を教えている隊員もいる。
		1-2-4) 交通事情・保健衛生	隊員は通勤の際、単車または自転車を利用しているため、移動の際は十分注意が必要である。航空便は、利用可能な便(ATR)と利用禁止の便(Y7、Y12型)が大使館・JICAにより定められているが、チェックイン後に後者に便が変更される場合もある。また、航空便を使用できないことにより、陸路での過酷な移動を余儀なくされる隊員もいるため、今後要検討。 ラオスの医療水準は極めて低く、傷病の場合はタイへの緊急移送が多い。
		1-2-5) 治安・安全確保	すり・ひったくりを含め一般犯罪は多いが、夜間の外出につき特に規定はない。ピエンチャン府フォンホン郡以北とシェンクアン県は危険地域に指定されており、現在ルート13(ヴィエンチャン〜ルアンパバン)、ルート7(ルアンパバン〜シェンクアン)の陸路での移動は禁止されている。全地域での夜行バスの利用も現在は禁止されている。単車での巡回指導の際は、一人で行かずC/Pと行動を共にするよう指導している。

ラオス・カンボジア JOCV巡回指導調査 共通調査事項 調査結果（ラオス）

1. 調査の目的	2. 調査内容	3. 調査事項	6. 調査結果
2) 在外事務所（所員調整員）の事業実施体制の実態把握	2-1) 事務所内の業務体制	2-1-1) 業務分掌・配置人員の適正度	隊員34名、SV31名計65名に対し、調整員4名、ナショナルスタッフ2名で必要十分な体制である。セクター割りと、SV・JOCV担当割りの業務分掌が併用されている。担当所員はなく、次長・所長が直営している。事務所全体では、所長、次長2名、所員4名、調整員4名、企画調査員4名、健康管理員1名、ナショナルスタッフ22名。
		2-1-2) 事業予算額の過不足の有無	現地支援費を含め現状で妥当。
		2-1-3) 機材現地調達の実施状況	携行機材費はすべて単車の購入に当てられている。現地調達にあたり、特に問題はない。
	2-2) 所員／調整員の執務環境	2-2-1) 勤務時間・事務量・出張の頻度	勤務時間は8:30-12:00、13:30-17:00。担当業務にもよるが、恒常的に2～3時間程度の残業。
		2-2-2) 業務用機器の充足度	各自の机上にパソコン、壁面キャビネットにファイルが整然と整理されており、充実した執務環境である。電話が繋がりにくい状況はあるが、メールも整備されている。10月末に、事務所及び隊員ドミトリーの移転が予定されている。
	2-3) 情報共有／連携体制	2-3-1) 事務合理化努力の実績	毎週金曜日の所内会議にて、情報共有ができています。このほか、DICとのミーティングが四半期に一回、ナショナルスタッフミーティングが週一回ある。
		2-3-2) 地方巡回の頻度	調整員によるが、多い場合で月1回以上、要請背景調査、隊員赴任時の付き添い、活動中隊員の巡回等で出張がある。
		2-3-3) 隊員総会・各種会議の開催状況	隊員総会は年2回、1月と7月に開催される。次回の総会では、連絡所の移転や、隊員のラオ語の名称である「アサーサマック（ボランティア、研修生の両方の意味を持つ）」の妥当性についても検討する予定。
	3) 在外事務所（所員調整員）との意見交換	3-1) 隊員活動現況	3-1-1) 事務所による隊員モニタリング体制
3-2-1) 国別援助実施計画との整合性			BHN、農業、人材育成、インフラ整備の4分野に符合した派遣となっている。
3-2) 今後の協力重点課題 員派遣計画		3-2-2) 隊員派遣計画の修正・確認	上記4分野について、特に修正が加えられる予定はない。派遣人数についても、ほぼ現状維持。今後、ラオス国立大学での日本語教師派遣が予定されている。
		3-3) 新規要請開拓の実施	3-3-1) 要請背景調査の実態
3-3-2) 今後の開拓有望分野			地方へのアクセスが悪いので、今後は状況を見ながら地方展開を検討することとなる。
3-4) 治安対策、非常時対応		3-4-1) 現地で可能な通信連絡手段	隊員には携帯電話を貸与しているほか、全県の代表者宅にFAXを設置している。また、全県ではないが、衛星電話を配備している。
		3-4-2) 治安関連情報の収集体制	現地警察より、安全対策クラークを雇用しているが、有用な情報が提供されることはなく、隊員からの情報の方が早い場合が多い。国として外国人へ情報を公表しない体質であることが影響していると思われる。
		3-4-3) 緊急事態への即応準備体制	緊急連絡網に沿って連絡し、安全確認する体制となっている。不定期に緊急連絡シュミレーションを実施している。傷病の際のSOSを活用した緊急移送体制は整備されている。
		3-4-4) 最近の被害事例と対応策	バイクによるひったくり、夜間の居空の被害があった。隊員へは、逐次注意喚起を行っている。
3-5) その他懸案事項		3-5-1) 事務所側の希望事項（あれば）	調整員派遣前研修時の予算関連の講義・実務研修を充実させてほしいとの要望があった。

ラオス・カンボジア JOCV巡回指導調査 共通調査事項 調査結果（ラオス）

1. 調査の目的	2. 調査内容	3. 調査事項	6. 調査結果
4) 受入国窓口機関、 隊員配属先との意 見交換	4-1) 協力隊事業に対する認識	4-1-1) 隊員に対する配属先からの評価	ほぼ良好な評価を得ているものの、金銭的な協力への期待が見受けられる場合も多い。
		4-1-2) 協力隊事業の認知度・報道実績等	JICAの知名度・理解度は高いものの、協力隊員に関する報道はほとんど無い。
	4-2) 今後要望／提言の聴取	4-2-1) 今後協力を求める分野の有無	受け入れ窓口からの情報は未入手。
5) 一般調査事項	5-2) 交通安全対策関連	5-2-1) 現地の一般的な交通事情	道路には車、単車、自転車等が溢れ、かつ秩序無く走るため（逆走、突然の右左折）、慣れが必要である。 長距離の移動は航空便かバス便。例えば、ビエンチャンールアンパバンの空路は一日二便、往復\$113で所要時間は40分。ビエンチャンーサバナケットの空路は週二便、片道\$65で所要時間は30分。バスは30000kipで所要時間は6～7時間。
		5-2-2) 車両貸与の実態・管理状況	34名中25名に単車貸与を行っている。うち2名はビエンチャン隊員であり、貸与の要否につき再検討及び無事故への注意喚起を依頼した。
		5-2-3) 交通安全委員会の活動状況	委員長（6ヶ月の任期）をJOVCV内で決め、総会時に担当次長が安全対策講話を行うとともに、担当調整員が単車・自転車講習を行うなどしている。
	5-3) 政治、経済、社会情報	5-3-1) 国会会期・政権抗争の現状等	情報未入手。
		5-3-2) 物価上昇率・景気関連情報等	為替レートはUS\$1=10600kip位である。食料などは微妙に値上がりしている模様。
		5-3-3) デモ・ストライキ情報等	特に情報は無いが、バス襲撃事件が発生しており、反政府組織の動きに注意する必要がある。
		5-3-4) 現地の一般的な住宅事情	外国人向けの住居は、集合住宅の場合、1DKで\$1000程度、2DKで\$1200程度である。一戸建ての場合は、3LDKが\$1000程度からある。



## ラオス国立大学経済経営学部支援及びラオス日本人材開発センター

(Development of the Faculty of Economics and Management of National University of Laos and the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center)

1. R/D等署名日： 2000年07月06日 2. 協力期間： 2000年09月01日 ~ 2005年08月31日
3. プロジェクト・サイト： ビエンチャン
4. 相手国実施機関： 教育省、ラオス国立大学
5. 日本側協力機関： 文部科学省、神戸大学、明治大学、(財)日本国際協力センター
6. 要請背景： ラオスにおいては、1986年に採択された新経済メカニズム（NEM：New Economic Mechanism）の下で、市場経済移行のための経済改革が進行中であり、第4次5カ年計画（1996-2000年社会・経済開発計画）においてもそのための人材育成が重要な課題と位置づけられている。  
また、ラオス政府はこのような人材育成の一環として、アジア開発銀行の支援を受けラオス国立大学を設立（1996年）するとともに、経済経営学部を新設したが、同支援が終了する2001年9月以降の技術協力を日本に求めてきた。  
一方、我が国においては、アジアの市場経済移行国に対する人材育成支援の一環として、「日本人材協力センター」を設立することが構想され、1998年7月には同国にプロジェクト形成調査団が派遣された。その結果、ラオス政府からは強力な同構想実現の為の強い要請を受け、ラオス国立大学経済経営学部への協力とともに日本人材協力センター設立への協力を併せて行うことになった。
7. プロジェクト目標： 上位目標：ラオス国において市場経済化を進めるために必要な人材の能力が向上する。  
プロジェクト目標：ラオス国立大学経済経営学部においてラオスが市場経済への移行を進めるために必要な人材が育成される。日本人材開発センターにより市場経済化のために必要な人材が継続的に供給され、日ラの社会や文化について相互理解が向上し、日ラ間の人的関係が強化される。
8. 期待される成果： <国立大学経済経営学部支援>  
1) 教員の質が向上する。  
2) カリキュラム・シラバス、教材が整備される。  
3) 学部の運営管理体制が強化される。  
<日本人材開発センター>  
1) 市場経済化の為の実践的なビジネスコースが整備される。  
2) ビジネスの為の日本語コースが整備される。  
3) 日ラの交流事業が活性化される。
9. 協力活動内容： <国立大学経済経営学部支援>  
1) 教員の教授能力向上（上位学位取得等）支援及び、研究活動支援を行う。  
2) カリキュラム・シラバス・教材の改善を行う。  
3) 学部運営体制及び運営状況のモニタリング・評価体制を整備する。  
<日本人材開発センター>  
1) ビジネスコースの教材を開発し、コースを実施する。  
2) ビジネスの為の日本語コースの教材を開発し、コースを実施する。  
3) 各種交流事業及びインフォメーションサービスを行う。
10. 調査団等派遣： プロ形調査 1998年07月11日 ~ 1998年07月22日 運営指導（中間評価） 2003年02月16日 ~ 2003年02月22日  
基礎調査 1999年01月31日 ~ 1999年02月07日  
事前調査 1999年08月03日 ~ 1999年08月14日  
実施協議 2000年06月27日 ~ 2000年07月08日  
運営指導 2002年01月22日 ~ 2002年01月26日
- 今後派遣予定：
11. 日本側対応： 専門家派遣（長期） チーフアドバイザー、調整員、経済学、経営学、日本語コース運営管理、ビジネスコース運営管理  
（短期） 経済学、経営学、日本語、ビジネスアドミニストレーション等  
研修員受け入れ 1~12名/年  
機材供与 図書、教材印刷機、コンピューター等  
その他
12. 他の経済技術 協力との関係： ラオス経済政策支援  
無償資金協力「ラオス国立大学施設、日本・ラオス人材協力センター建設計画」（2001年）
13. 他機関との関係：

Matters for Consultation

(1) Plan and Vision for Japanese Language Education in Lao PDR.

1). Role of Japanese Language Course in Lao PDR.

Lao and Japan has relationship and cooperation many sectors including the provide assistance to the Lao Government and enormously in the area of economic, social and education sectors. It need to the persons who are very good in Japanese Language for working <sup>various</sup> many sectors in Lao PDR.

Currently, Lao PDR lake of personnel who has knowledge and understanding about Japanese Language and Japan. Especially don't have the B.A degree personnel in Japanese Language.

Japanese Language Course is important and necessary in order to supply the need in the area of communication and cooperation in various level of the two counties , Lao-Japan.

Japanese Language Course help to train B.A students in Japanese Language and become the instructor of Japanese Language .

Japanese Language Course is important for increasing mutual understanding between the two nations.

2). The objective of Japanese Language Course

To pro students with 4 skills in Japanese Language at a reasonable high level.

To provide students with in-depth knowledge and understanding about Japanese Language as well as to lay the foundation for individuals who need to do research and study on Japanese Language or Japan at post-graduate level.

To be able to use Japanese Language in various occupation and to be able to interpret and translate official document.

Be able to teach Japanese Language

For learners to learn about Japan economy, history, culter and literature in order to improve the mutual understanding between the two nations.

3). Position and role of senior JOCV

- Instructor of Japanese Language and about Japan.
- Adviser for making Bachelor Program Curriculum in Japanese Language.

4). Plan of personnel

- We can select some instructor from Faculty of Letters.

\* From JOCV , if possible.

### **Preparation**

**(1). Forster plan of Lecturer**

- From JOCV
- Inside of Faculty of Letters and...

**(2). Budgetary plan**

According to budget of academic year of the National University.

**(3). Course and Curriculum Plan**

We make draft of curriculum already but not complete. We need Japanese adviser to continue complete the curriculum.

**(4). Space of class activity**

Provide by Faculty of Letters.

**(5). Text books and Materials**

- National University will provide .
- Cooperate with LJ center for asking for favor.

### **Conditions**

**(1). Necessity of Japanese Language course**

- Laos-Japan has relationship and cooperation many sectors and has continuously developed , but don't have people who are very good in Japanese Language.

- NUOL open to cooperation with Japan, especially with Tokyo University of Foreign Studies.

- Lack of instructor of Japanese Language and B.A degree personnels

- For good relationship and cooperation, increasing the mutual understanding between the two nations.

**(2). Demand for Japanese Language Course**

- Instructors
- Adviser for setting up Curriculum
- Text books and materials

**(3). Demand for graduates from Japanese Language Course**

Same as Objectives

-----

# **CURRICULUM ON BACHELOR PROGRAM IN JAPANESE LANGUAGE**

## **1. Name of Curriculum**

( Bachelor Program in Japanese Language )

## **2. Name of Certificate**

Bachelor of Arts ( in Japanese Language ) B.A.J

## **3. Responsibility Unit**

Faculty of Letters  
National University of Laos

## **4. Philosophy and Objectives**

### **4.1. Philosophy :**

Lao people's Democratic Republic and Japan has a long relationship history. Currently the relationship and cooperation between the two nations, Lao-Japan has continuously developed and has been very fruitful. In the past decades as well as present, the government of Japan has provided assistance to the Lao Government and people enormously in the area of economic, social and educational sectors.

The development of professionals on Japanese Language is vitally important and necessary in order to supply the needs in the area of communication and cooperation in various level of the two countries , Lao-Japan, in many sectors.

Besides , education and studies on Japan is necessary factor in this era in order to communicate, cooperate as well as to increase the mutual understanding between the two nations.

### **4.2. Objectives :**

- To provide students with listening, speaking, reading and writing skill in Japanese language at a reasonably high level.
- To provide students with in-depth knowledge and understanding about Japanese Language as well as to lay the foundation for individuals who need to do research and study on Japanese Language or Japan at a post-graduate level .
- To be able to use Japanese in various occupation and to be able to interpret and translate official document.
- Be able to teach Japanese Language.
- For learners to learn about Japanese economy, history, culture and literature in order to improve the mutual understanding between the two nations.

## **5. Time of course opening :**

Start in academic year 2003-2004

## **6. Number of students :**

In the first academic year, approximately 20-25 students will be accepted in to the programme. The following academic year, the number of participants will be considered with reference to the university capacity.

## **7. Participants Criteria :**

- \* Highschool graduate with highschool certificate.
- \* Teacher training college students 11+3.
- \* Good health.

## **8. Recruitment Methods :**

With reference to provincial education department assignment base on highschool mark report or the third year score for teacher training college 11+3 and quota of the ministry of education.

## **9. Draft of Curriculum**

### **A. Duration of Study : 5 years 180 Credits**

- 2 years at SFS
- 3 years at Faculty of Letters (FOL)

### **B. General Course 30 Credits ( Study at SFS )**

- Lao Language
- Philosophy
- Lao Studies 1
- Lao Studies 2
- Lao Studies 3
- Study Skills
- Environmental Science
- Introduction to Economics and Management
- Introduction to Computer
- Physical Education Activity

### **\* Core Course : 24 Credits ( Study at SFS )**

- Mathematics
- Mathematics/Statistics
- Physics
- Biology
- Theory of Literature
- Lao Literature
- History
- Geography
- Psychology
- Sociology

**\* Obligation Course : 100 Credits (Study at SFS and FOL)**

**1. Study Skills**

**62 Credits**

- Japanese 1
- Japanese 2
- Japanese 3
- Japanese 4
- Japanese 5
- Japanese 6
- Japanese 7
- Japanese 8
- Japanese Reading 1
- Japanese Reading 2
- Japanese Writing 1
- Japanese Writing 2
- Japanese Listening and Speaking 1
- Japanese Listening and Speaking 2
- Japanese Reading 3
- Japanese Reading 4
- Japanese Writing 3
- Japanese Writing 4
- Japanese Reading 5
- Japanese Writing 5
- Japanese Listening and Speaking 3
- Japanese Listening and Speaking 4

**2. Linguistics :**

**10 Credits**

- Japanese Linguistics 1
- Japanese Linguistics 2
- Japanese Grammar 1
- Japanese Grammar 2

**3. Japanese Civilization :**

**7 Credits**

- Japanese Culture
- Japanese Literature 1
- Japanese Literature 2

**4. Japanese Studies ;**

**6 Credits**

- Geography
- History

**5. Oral Translation and Writing Translation : 6 Credits**

- Oral Translation 1
- Writing Translation 1

**6. Lao Studies :**

**3 Credits**

**7. Lao Language and Literature : 6 Credits**

- Lao Usage
- Lao Grammar
- Lao Literature

**\* Obligation Elective Course : 18 Credits**

1. Students choose one of the following Languages to learn at least :  
14 Credits :

- English 14 Credits
- French 14 Credits
- Chinese 14 Credits
- Vietnamese 14 Credits

**2. Students choose one of following subject to learn :**

**4 Credits**

- Oral Japanese Translation 2 2 Credits
- Writing Japanese Translation 2 2 Credits
- Methodology of Teaching Japanese 2 Credits
- Japanese Pronunciation 2 Credits

**\* Free Elective : 2 Credits**

- Japanese and Communication 2 Credits
- Japanese for Secretariate 2 Credits

**\* Final - year undergraduate Project.**

### C. COURSE DETAIL

**First year ( Study at SFS )**

**\*First Semester : 18 Credits**

- Japanese 1 3 Credits
- Other General Subjects 15 Credits

**\*Second Semester : 18 Credits**

- Japanese 2 3 Credits
- Other General Subjects 15 Credits

**Second year ( Study at SFS )**

**\*First Semester : 19 Credits**

- Japanese 3 5 Credits
- Foreign Language 1 2 Credits  
( English, French, Chinese, Vietnamese )
- Other Core Course 12Credits

**\*Scond Semester : 19 Credits**

- Japanese 4 5 Credits
- Foreign Language 2 2 Credits  
( English, French, Chinese, Vietnamese )
- Other Core Course 12Credits

**Third year ( Study at FOL )**

**\*First Semester : 20 Credits**

- Japanese 5 3 Credits
- Japanese Reading 1 3 Credits
- Japanese Writing 1 3 Credits
- Japanese Literature 1 2 Credits
- Japanese Culture 3 Credits
- Japanese Linguistics 1 2 Credits
- Lao Studies I 2 Credits

- Foreign Language 3 2 Credits  
( English,French,Chinese,Vietnamese )

**\*Scnd Semester :** **20 Credits**  
- Japanese 6 3 Credits  
- Japanese Linguistics 2 2 Credits  
- Japanese Literature 2 2 Credits  
- Japanese Grammar 1 3 Credits  
- Japanese Reading 2 3 Credits  
- Japanese Writing 2 3 Credits  
- Japanese Listening and Speaking 1 2 Credits  
- Foreign Language 4 2 Credits  
( English,French,Chinese,Vietnamese )

#### **Fourth year ( Study at FOL )**

**\*First Semester :** **19 Credits**  
- Japanese 7 3 Credits  
- Japanese Writing 3 3 Credits  
- Japanese Reading 3 3 Credits  
- Japanese Speaking and Listening 2 2 Credits  
- Japanese Writing Translation 1 3 Credits  
- Japanese Grammar 2 3 Credits  
- Foreign Language 5 2 Credits  
( English,French,Chinese,Vietnamese )

**\*Scnd Semester :** **21 Credits**  
- Japanese 8 3 Credits  
- Japanese Writing 4 3 Credits  
- Japanese Reading 4 3 Credits  
- Japanese Oral Translation 1 3 Credits  
- Japanese Geography 3 Credits  
- Japanese Speaking and Listening 3 2 Credits  
- Foreign Language 6 2 Credits  
( English,French,Chinese,Vietnamese )  
- Lao Grammar 2 Credits

#### **Fifth year ( Study at FOL. )**

**\*First Semester :** **17 Credits**  
- Japanese Reading 5 2 Credits  
- Japanese Writing 6 2 Credits  
- Lao Usage 2 Credits  
- Lao Literature 2 Credits  
- Lao Study 2 1 Credits  
- Students choose one of the following subjects to learn 4 Credits :  
+ Japanese Oral Translation 2 2 Credits  
+ Japanese Writing Translation 2 2 Credits  
+ Methodology 2 Credits  
+ Japanese Pronunciation 2 Credits  
- Foreign Language 7 2 Credits  
( English,French,Chinese,Vietnamese )  
- Free Elective 2 Credits

**\*Scnd Semester :** **9 Credits**



- Japanese History 3 Credits
- Final-year Undergraduate Report  
( or Research Project ) 6 Credits

-----

## Teaching Plan

Subject : Japanese 1-2

( for S.F.S Students First year )

+ Credits 3(0-6-0)  
3 times a week ; 1 time = 100 minutes x 3 = 300 - 5 hours / week  
32 weeks x 5 hours = 160 hours

### I. First Semester

+ Credits	=	3(0-6-0)	
		80	hours
+ Lesson		68	hours
+ 3 lesson review test		3	hours
+ Midterm Exam		2	hours
+ Review and Exam..		5	hours
+ Extra time		2	hours

#### \* Introduction 5 hours ( 1 week )

- General Feature of Japanese
- Japanese Script ( HIRAGANA, KATAKANA )
- Pronunciation of Japanese
- Classroom Instructions
- Daily Greeting and Expressions
- Numerals from 0 - 10

#### \* Units 1 : 6 hours

- Minnano nihongo I (lesson1)
- Review and practice reading-writing in HIRAGANA
- Lesson test

#### \* Units 2 : 6 hours

- Minnano nihongo I (lesson2)
- Review and practice reading-writing in HIRAGANA
- Numerals from 11 - 100
- Lesson test.

#### \* Units 3 : 6 hours

- Minnano nihongo I (lesson3)
- Review and practice reading-writing in HIRAGANA
- Numerals from 101 - 10.000
- Lesson test.

#### \* Review test ( for lesson1-2-3 ) 1 hour

#### \* Units 4 : 6 hours

- Minnano nihongo I (lesson4)
- Practice ( KATAKANA )
- Lesson test.

* <b>Units 5 :</b>	<b>6</b>	<b>hours</b>
- Minnano nihongo I (lesson5)		
- Practice ( KATAKANA)		
- Lesson test.		
* <b>Midterm Exam</b>	<b>2</b>	<b>hours</b>
* <b>Units 6 :</b>	<b>6</b>	<b>hours</b>
- Minnano nihongo I (lesson6)		
- Practice ( KATAKANA)		
- Lesson test.		
* <b>Units 7 :</b>	<b>7</b>	<b>hours</b>
- Minnano nihongo I (lesson7)		
- Practice ( KATAKANA)		
- Lesson test.		
* <b>Review test ( for lesson4-5-6-7 )</b>	<b>1</b>	<b>hour</b>
* <b>Units 8 :</b>	<b>7</b>	<b>hours</b>
- Minnano nihongo I (lesson8)		
- Practice ( KATAKANA)		
- Lesson test.		
* <b>Units 9 :</b>	<b>6</b>	<b>hours</b>
- Minnano nihongo I (lesson9)		
- Practice ( KATAKANA)		
- Lesson test.		
* <b>Unit 10</b>	<b>7</b>	<b>hours</b>
- Minnano nihongo I (lesson10)		
- Practice ( KATAKANA )		
- Lesson test		
* <b>Review test ( for lesson 8-9-10 )</b>	<b>1</b>	<b>hour</b>
* <b>Review</b>	<b>2</b>	<b>hours</b>
* <b>First semester Exam</b>	<b>3</b>	<b>hours</b>

## II. Second Semester :

+ Credits	=	3(0-6-0)
		80 hours
+ Lesson		66 hours
+ 3 lessons test		3 hours
+ Midterm Exam..		2 hours
+ Review and Exam..		5 hours
+ Extra time		4 hours
* <b>Unit 11</b>	<b>8</b>	<b>hours</b>
- Minnano nihongo I (lesson11)		
- Kanji made from picture ( Minnano nihongo KanjiI: unit1 )		
- Practice ( KATAKANA )		
- Lesson test		

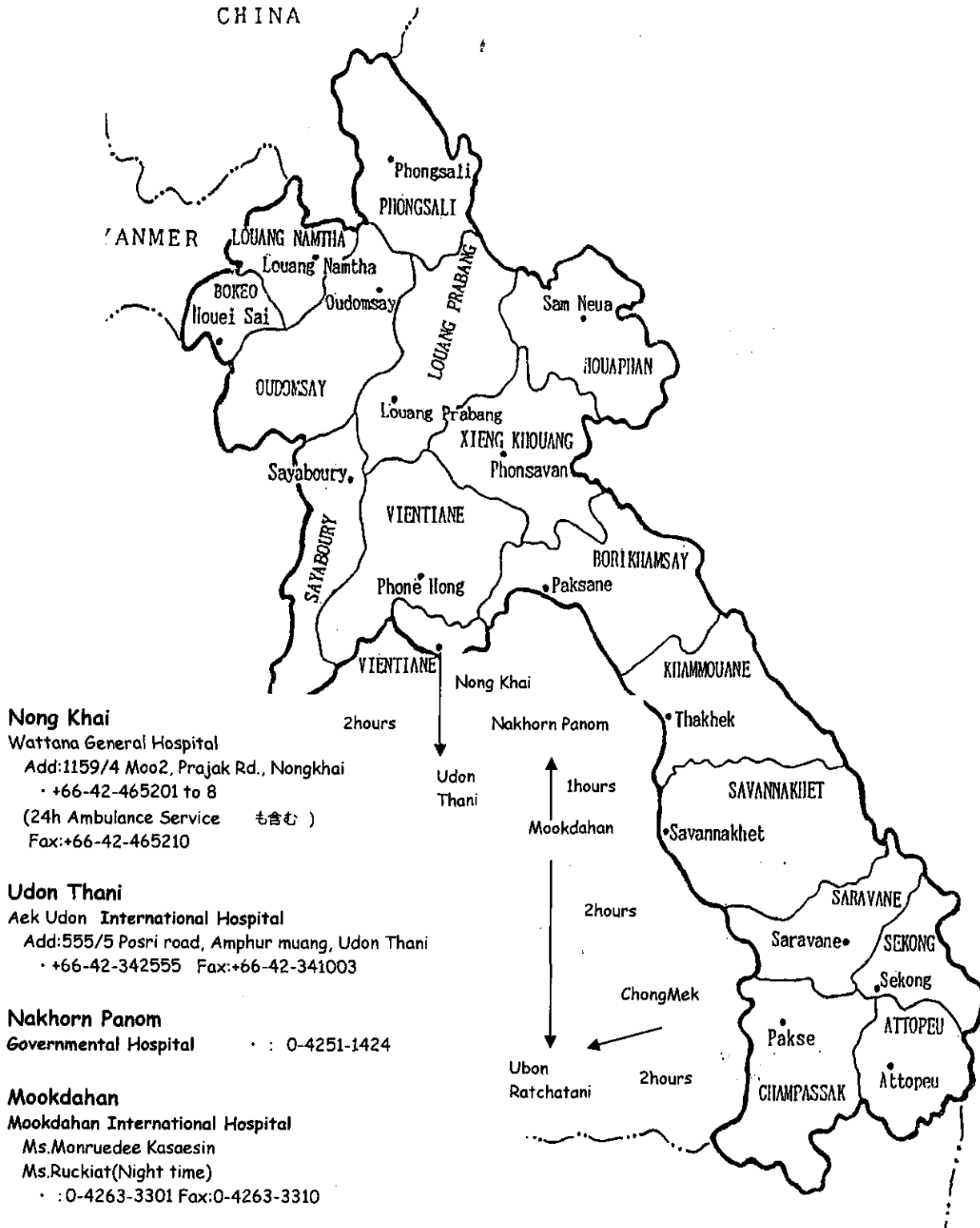
* Unit 12	7	hours
- Minnano nihongo I (lesson12)		
- Kanji ( Minnano nihongo KanjiI; unit2 )		
- Practice ( KATAKANA )		
- Lesson test		
* Unit 13	8	hours
- Minnano nihongo I (lesson13)		
- Kanji ( Minnano nihongo KanjiI; unit 3 )		
- Lesson test		
* Review test ( for lesson11-12-13 )	1	hour
* Unit 14	7	hours
- Minnano nihongo I (lesson14)		
- Kanji ( Minnano nihongo KanjiI; unit 4 )		
- Lesson test		
* Midterm Exam.	2	hours
* Unit 15	7	hours
- Minnano nihongo I (lesson15)		
- Kanji ( Minnano nihongo KanjiI; unit5 )		
- Lesson test		
* Unit 16	7	hours
- Minnano nihongo I (lesson16)		
- Kanji ( Minnano nihongo KanjiI; unit6.)		
- Lesson test		
* Review test ( lesson 14-15-16 )	1	hour
* Unit 17	7	hours
- Minnano nihongo I (lesson17)		
- Kanji ( Minnano nihongo KanjiI; unit7 )		
- Lesson test		
* Unit 18	7	hours
- Minnano nihongo I (lesson18)		
- Kanji ( Minnano nihongo KanjiI; unit8 )		
- Lesson test		
* Unit 19	8	hours
- Minnano nihongo I (lesson19)		
- Kanji ( Minnano nihongo KanjiI; unit9 )		
- Lesson test		
* Review test ( for lesson 17-18-19 )	1	hour
* Review	3	hours
* Semester Exam..	3	hours

-----

## SOSが関係する Thailand 側の Hospital 情報

March 26 / 2003

ラオス事務所・健康管理員 黒澤記



**Nong Khai**  
 Wattana General Hospital  
 Add: 1159/4 Moo 2, Prajak Rd., Nong Khai  
 ・ +66-42-465201 to 8  
 (24h Ambulance Service も含む)  
 Fax: +66-42-465210

**Udon Thani**  
 Aek Udon International Hospital  
 Add: 555/5 Posri road, Amphur muang, Udon Thani  
 ・ +66-42-342555 Fax: +66-42-341003

**Nakhorn Panom**  
 Governmental Hospital  
 ・ : 0-4251-1424

**Mookdahan**  
 Mookdahan International Hospital  
 Ms. Monruedee Kasaesin  
 Ms. Ruckiat (Night time)  
 ・ : 0-4263-3301 Fax: 0-4263-3310

**Ubon Ratchatani**  
 Ubolrak Tonbury Hospital  
 ・ : 0-4526-0300, Fax: 0-4524-3654  
 Rajchavej Ubolratchatani Hospital  
 ・ : 0-4528-0040, Fax: 0-4531-4304

※ Mookdahan には飛行場がないため、Thailand 内での緊急移送をするためには、Nakhorn Panom 又は Ubon Ratchatani に移動する必要がある。

